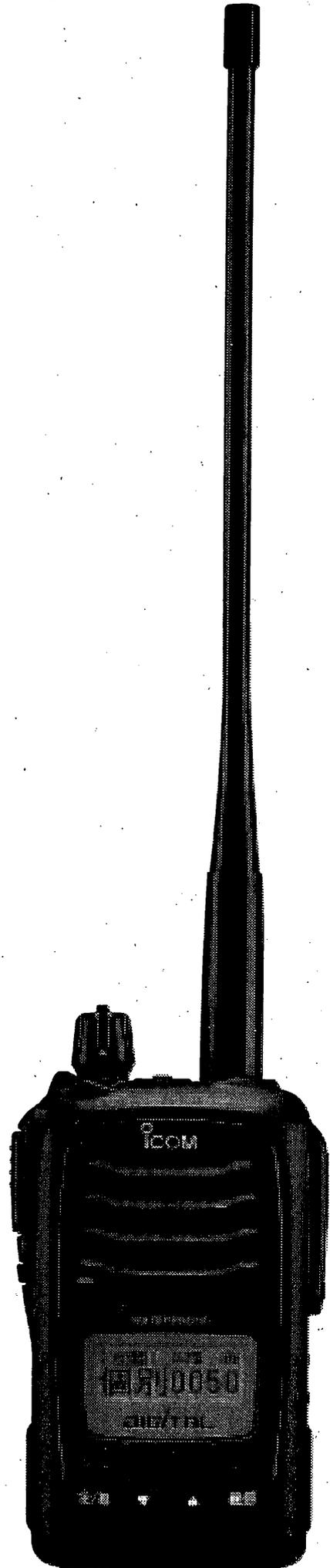
ICOM

取扱説明書

携帯型デジタル簡易無線機

IC-D50

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明で認定されたデジタル簡易無線電話装置です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

取扱説明書の内容について

この取扱説明書に記載の操作や機能は、販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。詳しくは、お買い上げの販売店におたずねください。

チャンネルについて

●CH1 ～ CH14、CH16 ～ CH30　:通話用チャンネル
●CH15　:呼出用チャンネル
●S1 ～ S5　:上空用チャンネル
※S1 ～ S5チャンネルでは送信できません。
※S1 ～ S5チャンネルの設定は販売店にご依頼ください。

標準構成品

本製品には、下記のものを同梱しています。

●無線機本体 ································ 1
●アンテナ ································ 1
●ハンドストラップ ································ 1
●取扱説明書(本書)、保証書 ································ 各1

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、 Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
本製品のフォントはリョービのフォントを採用しております。

はじめに

本製品の概要

◎本製品は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した製品です。

◎IP57「(防塵形相当)★1と(防浸形相当)★2」の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック、アンテナ装着時に限る)

◎チャンネル番号の代わりとして、漢字、英数字、記号、外字を使用した半角8(全角4)文字で表示できます。

◎デジタル通信によりクリアな音質で交信できます。

◎本製品を個別呼び出し機能「OFF」で使用する場合、種別コード「3R」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。

★1.バッテリーパック、アンテナを正しく装着した状態で、試験用粉塵を1m^{3}あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。

★2.バッテリーパック、アンテナを正しく装着した状態で、水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。

使用後はリサイクルへ

この製品は、充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

はじめに

防水性能について

バッテリーパック(BP-220N/BP-246)、防水形スピーカーマイク(HM-130/HM-172/HM-183SJ)は、本製品に装着することでJIS保護等級7(防浸形)相当の性能がありますが、完全防水構造ではありません。
下記のような環境で使用すると防水性能を維持できませんのでご注意ください。

- 水深1m以上、または30分間以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、または濡れた手でバッテリーパックやアンテナ、防水形スピーカーマイクを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥などが無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、歪み、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- バッテリーパックを無線機本体に取り付けないで使用したり、下記「■ 別売品の防水性能について」に記載している別売品以外の別売品を使用したりしたとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき
- 使用温度範囲からはずれた温度で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散、または薬品にふれるところに放置したとき

■ 別売品の防水性能について

バッテリーパック(BP-220N/BP-246)、防水形スピーカーマイク(HM-130/HM-172/HM-183SJ)、防水形短縮アンテナ(FA-S04U)を無線機本体に装着することで、JIS保護等級7(防浸形)相当の性能になります。

※接話タイピン型マイクロホン(HM-163)のコネクター部はJIS保護等級7(防浸形)保証の性能がありますが、マイクロホン部はJIS保護等級7ではありません。

※上記以外の別売品(☞6章)については、防水性能を保証していませんので、ご注意ください。

取り扱い上のご注意

◎アンテナを持って製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
◎雨の中や、水滴が付着、または濡れた手のままでバッテリーパックや防水形スピーカーマイク、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。
◎水や湯を水道の蛇口から直接当てないでください。
◎無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、ときどきお手入れしてください。
◎磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。
◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
◎別売品のアルカリ電池ケース(BP-221)をお使いになったあと、長期間お使いにならない場合は、乾電池を必ず取り出してください。電池の液もれにより、故障の原因になることがあります。
また、電池のアルカリ液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触ったりしないでください。
失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
◎別売品のアルカリ電池ケース(BP-221)には、単三形アルカリ乾電池以外の電池を使用しないでください。

はじめに

電波法上のご注意

◎本製品は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した携帯型デジタル簡易無線機です。
これは簡単な手続きにより無線送受信機を使っていただくために定められたもので、無線機本体を容易に分解できない構造になっています。
ご自分で分解や改造をしないでください。

◎特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、かたく禁じられています。

◎使用できるのは、日本国内に限られています。

◎本製品は上空から送信できません。
パラグライダー飛行などで上空から送信する場合には、お使いいただけませんのでご注意ください。

別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作不良や性能の低下については、保証対象外とさせていただきますのでご注意ください。

海水や砂、泥などが付着したときは?

海水や砂、泥などが無線機に付着したときは、真水で洗い流してください(蛇口からの水を無線機に直接かけないでください)。
このとき、バッテリーパック、アンテナは無線機本体から絶対にはずさないでください。
洗い流したあとは、水分をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。

もくじ

もくじ

安全上のご注意

<table><tr><td>安全にお使いいただくために、
ご使用の前に、必ずお読みください。</td></tr></table>

▶使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
▶次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
▶お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■ 無線機本体について

<table><tr><td>⚠危険</td><td>下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。</td></tr><tr><td colspan="2">◎引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。</td></tr></table>

安全上のご注意

⚠警告	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。

交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。

運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

◎電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。

電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

◎製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

◎アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続したりしないでください。

感電、故障の原因になります。

◎アンテナやハンドストラップ、ショルダーストラップの端を持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。

本人や他人に当たって、けがや故障、破損の原因になります。

◎大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。

大きな音を連続して聞くと、聴力障害の原因になります。

◎万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

すぐに電源を切り、無線機本体からバッテリーパックを取りはずしてください。

煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 無線機本体について(つづき)

⚠注意	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。
変形や破損の原因になることがあります。
◎針金などの細い棒でマイクロホン部やスピーカー部の穴に触れないでください。
故障の原因になることがあります。
◎無線機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。
◎直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
◎指定以外の別売品を使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
◎テレビやラジオの近くで送信しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
◎−20℃〜+60℃★以外の環境では使用しないでください。
★BP-246使用時のみ、−10℃〜+60℃の環境でご使用ください。
故障の原因になることがあります。
◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
普段は乾いたやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■ 無線機本体について(つづき)

⚠注意	**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

インバータ内蔵の電子機器の周辺で使用しないでください。
◎電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

■ バッテリーパックについて(別売品)

⚠危険	**下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。**

◎火の中に投入したり、加熱しないでください。
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

◎コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、60℃を超える環境で放置、または使用しないでください。
バッテリーパックの性能や寿命が低下したり、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での充電はしないでください。
保護装置が動作して、充電できなくなったり、保護装置を破損して、破裂、発煙、発火や火災、やけどの原因になります。

安全上のご注意

■ バッテリーパックについて(つづき)

⚠危険	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときはときは、こすったり、触ったりしないでください。
  失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

◆バッテリーパックをご使用の際に、異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

安全上のご注意

⚠警告	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎**使用中や充電中、または保管中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。**
使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎**赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
感電やけがの原因になります。

◎**電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎**指定の充電時間以上、充電しないでください。**
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎**指定の充電時間を超えても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎**バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。**
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

◎**テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。**
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

安全上のご注意

■ バッテリーパックについて(つづき)

⚠注意 | 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。

●バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、バッテリー残量が中レベルを表示するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。

●以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
BC-161(卓上急速充電器)　　：0～40℃
BC-121NA(6連急速充電器)：10～40℃

●−20℃～＋60℃(BP-220N使用時)、−10℃～＋60℃(BP-246使用時)以外の環境で使用しないでください。

●寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。

●無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

●長期(約1年)間使用しないときは、バッテリーパックを無線機から取りはずして、−20℃～＋25℃の風通しのよい湿気の少ない場所に保管してください。
3ヶ月間ほど使用しないときは、−20℃～＋35℃の湿気の少ない場所に保管してください。
1ヶ月間ほど使用しないときは、−20℃～＋40℃の湿気の少ない場所に保管してください。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。

ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
普段は、乾いたやわらかい布でふいてください。

■ バッテリーパックについて(つづき)

⚠注意	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎別売品のアルカリ電池ケース(BP-221)をお使いの場合で、電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。
また、種類の異なる電池を混ぜて使用したり、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。

◎別売品のアルカリ電池ケース(BP-221)をお使いの場合、乾電池に記載されている注意事項も、併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

■ 充電器について(別売品)

⚠危険	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- ACアダプターは、充電器(BC-161)で指定された別売品(BC-165)以外のものを使用しないでください。
- 弊社指定以外のバッテリーパックは、使用しないでください。
BP-220N、BP-246専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。

■ 充電器について(別売品)つづき

⚠警告	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- BC-161を連結して使用できるのは**最大4台まで**です。それ以上の台数を連結して使用しないでください。
- 充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。
  また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源コードや接続ケーブルを踏みつけたり、重い物を載せたりしないでください。
- 電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態の時は使用しないでください。
  すぐにACコンセントから電源コードを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

安全上のご注意

⚠注意	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

●以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
BC-161(卓上急速充電器)　：0～40℃
BC-121NA(6連急速充電器)：10～40℃

●充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。

●湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。

●電源コードを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。

●充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源コードを抜いてください。

◎直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。

充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

◎充電器を保管するときは、－10℃～＋70℃で湿気の少ない場所に保管してください。

サビの発生、性能の低下の原因になることがあります。

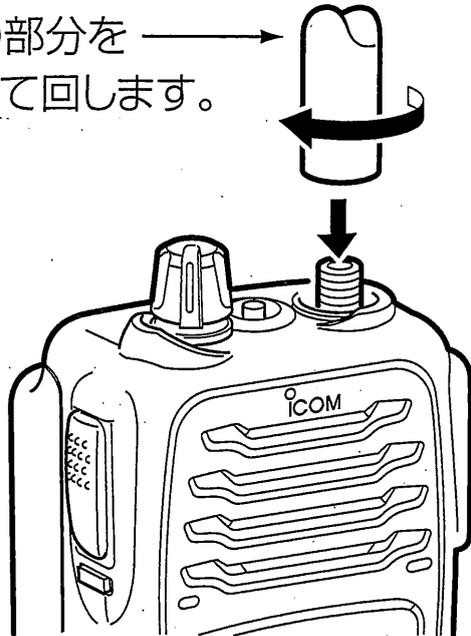
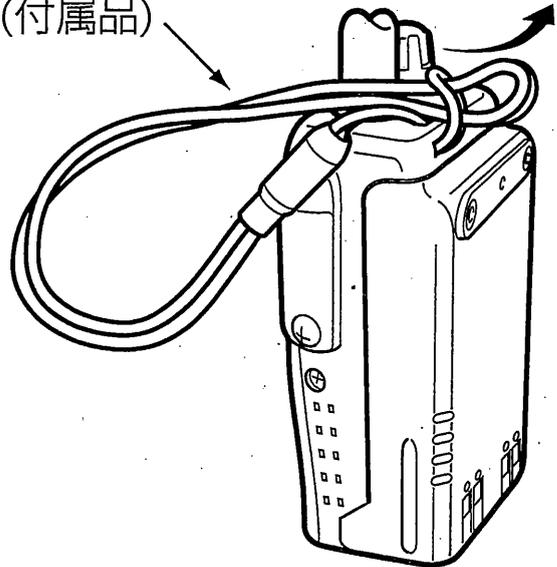
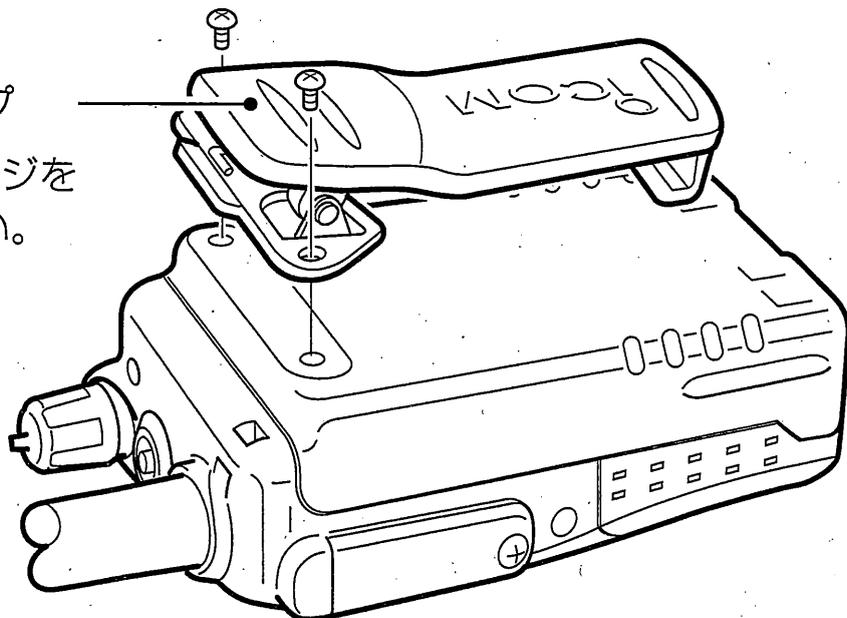
◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。

ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。

普段は乾いたやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

1 ご使用前の準備

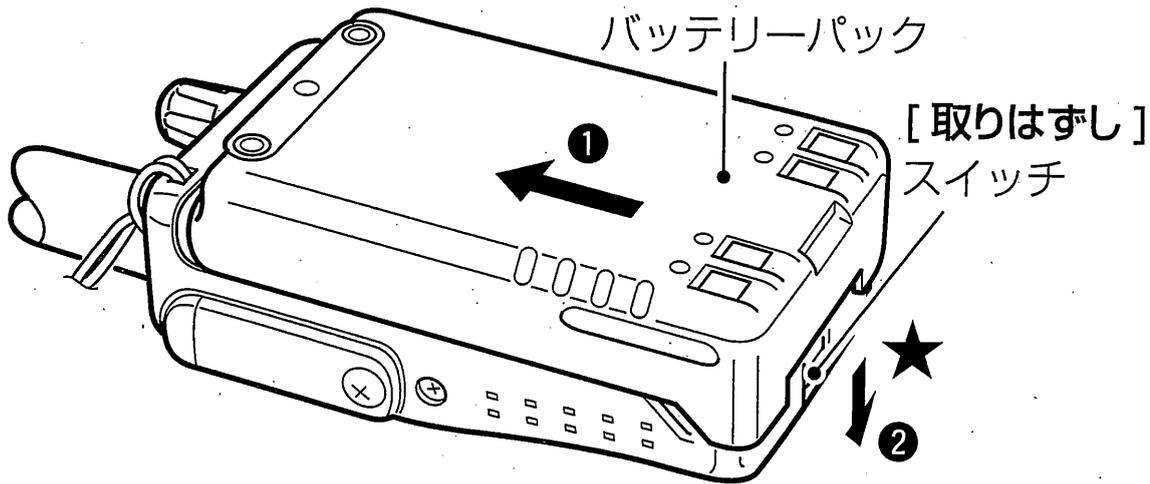
■ 付属品の取り付け

【アンテナ】

【ハンドストラップ】

■ ベルトクリップの取り付け (別売品：MB-98の場合)

※ベルトクリップは、タイプ(☞P35)によって、使用できるネジの長さが異なります。
取り付けるときは、お使いのベルトクリップに付属するネジ以外のものを使用しないでください。

■ バッテリーパックの取り付け(別売品)

バッテリーパックを本体に密着させながら、「カチッ」と音がするまで[❶]の方向にスライドさせます。

※取り付けたとき、バッテリーパックが無線機底面にある**[取りはずし]**スイッチでロックされていることを確認してください。

★ 取りはずすときは、**[取りはずし]**スイッチを[❷]の方向に押し下げるとロックがはずれます。

⚠ 警告

本製品やバッテリーパックが濡れたり汚れた状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子が錆びたりして、故障の原因になります。

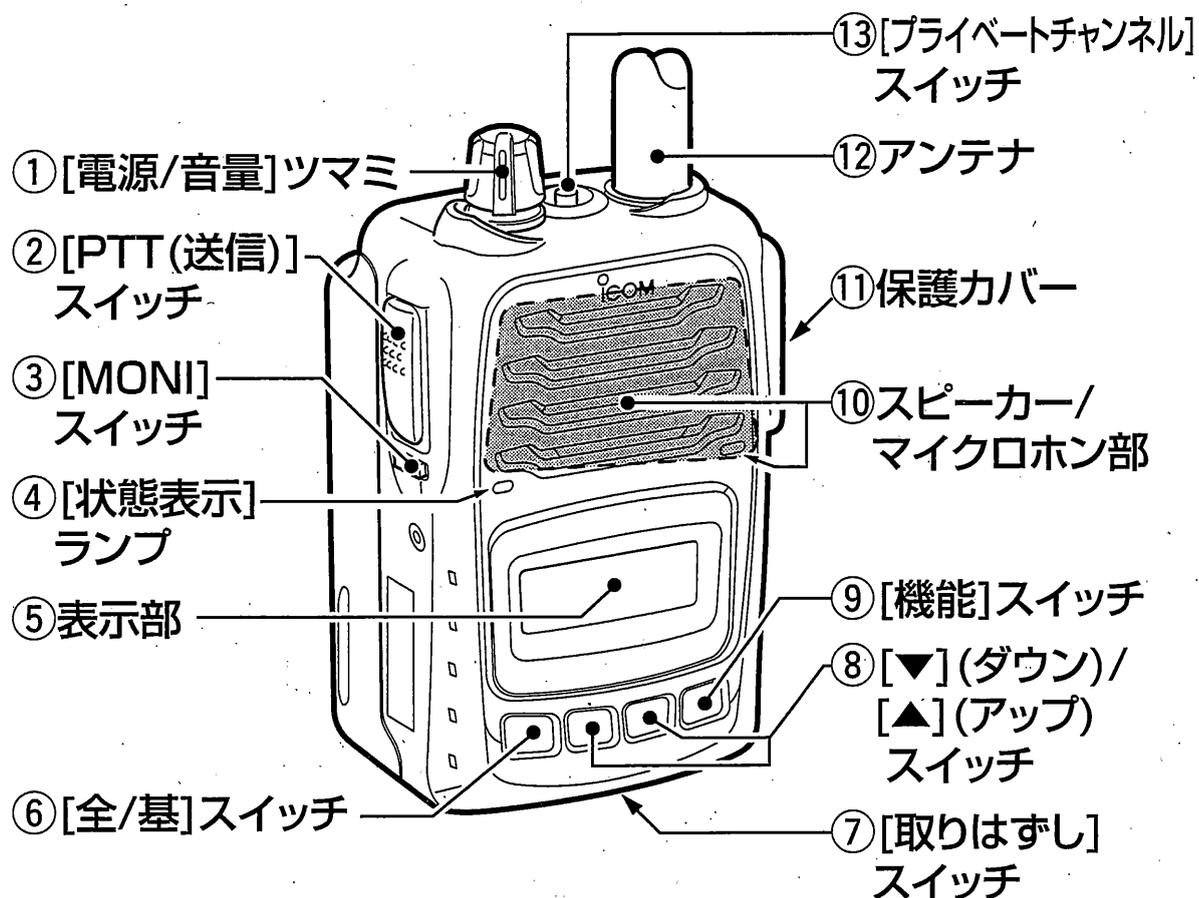
※充電方法については、6章(☞P38～P42)をご覧ください。

⚠ 注意

バッテリーパックを取りはずすときは、次のことを守らないと、指や爪を傷めるおそれがあります。

バッテリーパックを取りはずすとき、**[取りはずし]**スイッチの操作は、バッテリーパックを[❶]の方向に軽く押し込んで、**[取りはずし]**スイッチが軽く動く状態になってから、[❷]の方向に操作してください。

2 各部の名称と機能

■ 前面部

① [電源/音量]ツマミ(☞P7)

- ツマミを時計回りに回すと、電源が「ON」になります。
- 電源を「OFF」にするときは、「カチッ」と音がするまで逆方向に回します。
- ツマミを回すと、音量(0～32)を調整できます。

② [PTT]スイッチ(☞P12)

こちらからはなすときに[PTT]スイッチを押します。はなし終わって、通話相手の話を聞くときは、[PTT]スイッチをはなします。

③ [MONI]スイッチ(☞P16)

モニター機能が設定されている場合、押しているあいだモニター機能が動作します。

※通常は使用しませんが、受信音がない状態で音量を調整するときは、「ON」にします。

[電源/音量]ツマミ(電源をONにした時は点灯)、[PTT]スイッチ以外の操作をしたとき、表示部の照明が約5秒間点灯します。

④ [状態表示]ランプ
交信の状態を示します。
- 赤色点灯：送信中
- 緑色点灯：信号を受信中
- 橙色点滅：着信表示を「ON」に設定しているときに、着信があった場合

⑤ 表示部(☞P5、P6)
運用状態を表示します。

⑥ [全/基]スイッチ(☞P11)
押すごとに、「全体」→「基地」→「個別」→「グループ」の順番に呼び出せる局を切り替えます。
※個別呼び出し機能が設定されていない場合は、スイッチ操作が無効になります。

⑦ [取りはずし]スイッチ(☞P2)
バッテリーパック(別売品)の取り付けや取りはずしをします。

⑧ [▼](ダウン)/[▲](アップ)スイッチ
- 押すごとにチャンネルが切り替わります。
- セットモード時は押すごとに設定値が切り替わります。

※個別呼び出し機能やユーザーコードグループ機能が設定されている場合は、**[機能]**スイッチや**[全/基]**スイッチを操作して表示された内容が切り替わります。
(☞P9～P11)

⑨ [機能]スイッチ(☞P9)
短く押すごとに、「通話チャンネル番号」→「ユーザーコードグループ」★1→「個別(相手局)番号」★2の順番に表示が切り替わります。
※長く押すごとに、**ロック機能(☞P16)を「ON」/「OFF」**できます。
★1 ユーザーコードグループが設定されていない場合、「ユーザーコードグループ」は、表示しません。
★2 個別呼び出し機能が設定されていない場合、「個別(相手局)番号」は、表示しません。

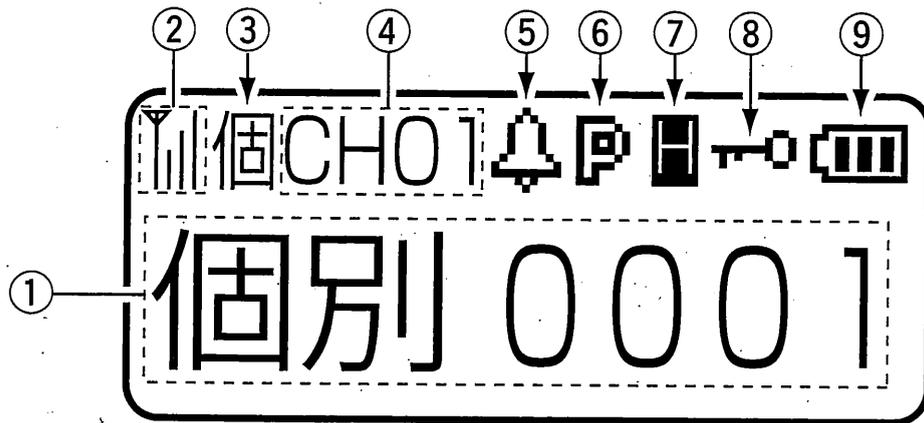
⑩ スピーカー/マイクロホン部
超小型のスピーカーとマイクロホンを内蔵しています。
別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するときは機能しません。

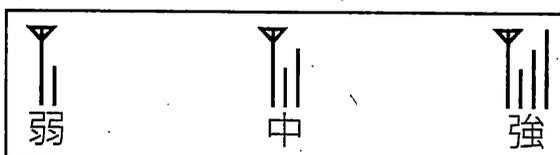
⑪ 保護カバー(☞P46)
別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するコネクターを保護します。
保護カバーをはずすと、接続できます。

⑫ アンテナ(☞P1)
電波を発射、または受信する部分です。

⑬ [プライベートチャンネル]スイッチ
プライベートチャンネル(☞P17)を表示します。

2

■ 表示部

① [相手局番号/設定内容]表示
チャンネル番号/個別番号/グループ番号/ショートメッセージなどを表示します。
チャンネルや個別番号に名称を設定している場合は、チャンネル番号表示や個別番号表示で名称を表示します。
また、**[電源/音量]**ツマミを回すと、音量(0～32)を表示します。
※チャンネルや個別番号に名称を設定する場合、またショートメッセージを表示する場合はお買い上げの販売店にご依頼ください。

② 電界強度表示
受信している電波の強さ(目安)を、下記の3段階で表示します。
※「Ƴ」は常時点灯します。

③ モード表示
- 運用中の[個](個別)/[全](全体)/[基](基地)/[グ](グループ)の各モードを表示します。
- グループメンバー時は[メ]が白黒反転表示します。(☞P29)

④ ガイドメッセージ表示
- 通話チャンネルが漢字やアルファベット表示(①の部分)に設定されているとき点灯します。
- セットモード時に「SET」が、ショートメッセージ選択画面時に「メッセージ」が点灯します。
- 秘話設定時は[CH]が白黒反転表示します。

⑤ 🔔(ベル)(☞P13)

- 個別呼び出し(着信)を受けたとき点滅します。(☞P13)
- ポケットビープ機能(☞P13)が設定されているとき点灯します。

⑥ P(Pベル機能)(☞P16)

Pベル機能を「ON」に設定したとき表示します。

⑦ H / L / R(送信出力/受信専用)(☞P19)

各通話チャンネルの送信出力設定(High/Low)、受信専用チャンネルを表示します。

H:ハイパワー(5W)選択時に点灯。

L:ローパワー(1W)選択時に点灯。

R:受信専用チャンネル選択時に点灯。

⑧ 🔑(ロック機能)(☞P16)

ロック機能を「ON」に設定したとき点灯します。

⑨ (電池残量)(☞P36)

電池残量を4段階で表示します。

Ⅲ: 十分に容量があります。

Ⅱ: 電池が多少消耗していますが、運用できます。

Ⅰ: 短時間であれば運用できます。

点滅: すぐに使えなくなりますので、電池の交換、充電が必要です。

2

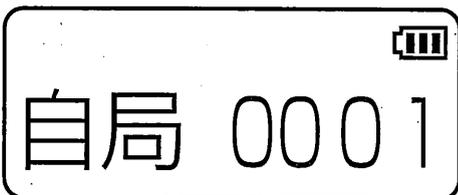
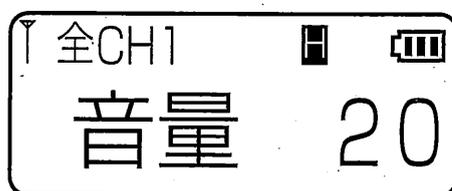
3 交信のしかた

【ご注意】本書では、個別呼び出し機能が「ON」の場合の使いかたについて説明しています。個別呼び出し機能が「OFF」の場合の使いかたについては、別紙の操作設定ガイドをご覧ください。

1 電源を入れる

[電源/音量]ツマミを時計回りに回して電源を入れます。
[電源/音量]ツマミを逆方向に「カチッ」と鳴るまで回すと、電源が切れます。

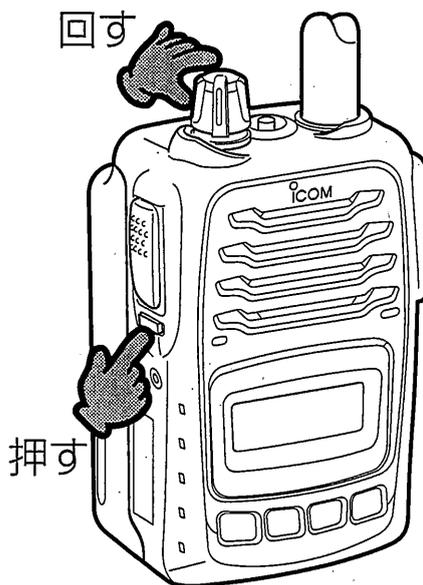
電源を入れると、ビープ音が**「ピー」**と鳴って、起動コメントを表示します(設定時のみ)。
※個別呼び出し機能が設定されている場合は、自局番号を表示します。

自局 0001

例:自局番号表示

個別呼び出しは、パワーセーブをOFFにしてから使用してください。
※パワーセーブは「詳細セットモード」(☞P32)で設定できます。

---

2 音量を調整する

相手局の音声が大きすぎたり、小さすぎたりしたときは、**[電源/音量]**ツマミを回して聞きやすい音量に調整します。

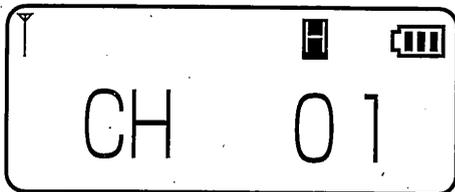
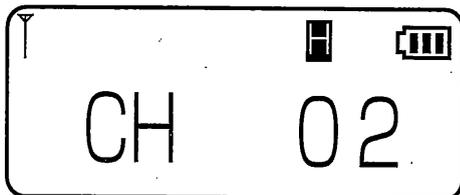
モニター機能が設定されている場合、何も音が出ていない状態での音量調整は、**[MONI]**スイッチを押して「ザー」という雑音を出し、この雑音を聞いて調整します。
調整後は、**[MONI]**スイッチをはなします。

3 相手局を選択する

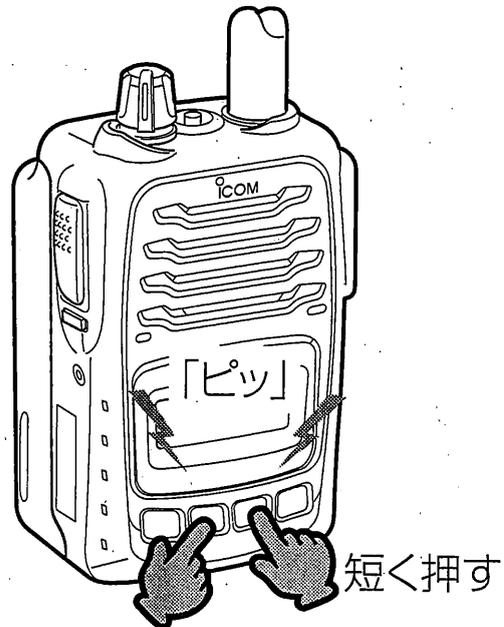
個別呼び出し機能で相手局を呼び出すときは、あらかじめ**「通話チャンネル番号」**と**「個別(相手局)番号」**を選択します。

Step1.通話チャンネル番号の選択

通話チャンネル番号とは、交信する周波数のことです。
交信する相手と同じ[通話チャンネル]番号を選択します。
相手と[通話チャンネル]番号が異なるときは通信できません。

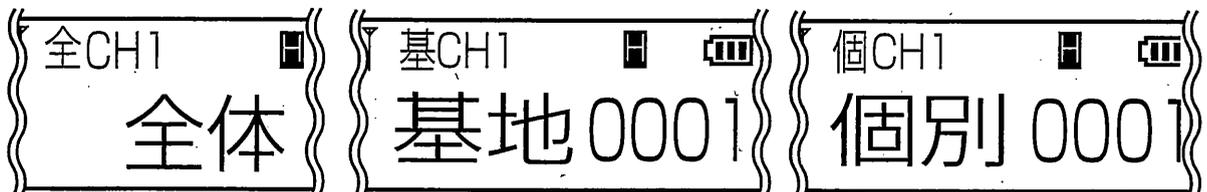
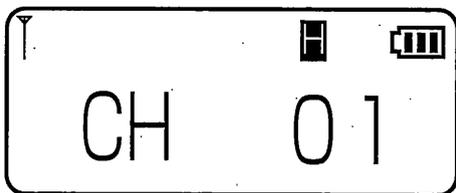
●「チャンネル」表示から選択する場合

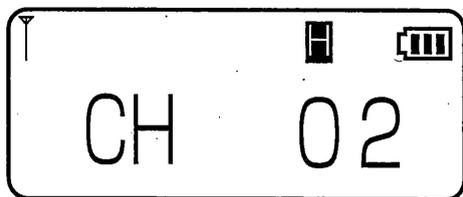
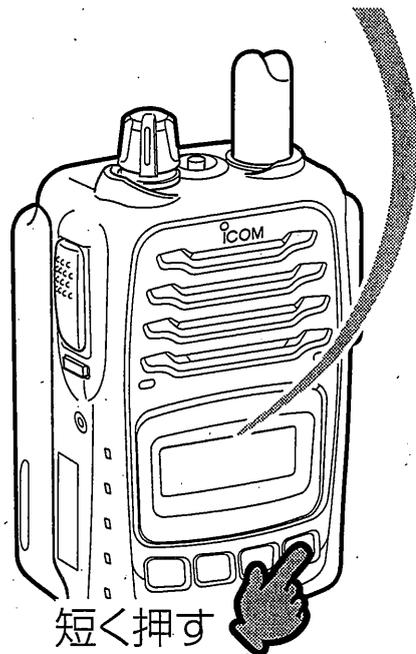
① [▼]/[▲]スイッチを短く押すごとに、チャンネルがダウン/アップします。

通話チャンネル番号表示

2チャンネルを選択したとき

例:漢字表示

3 相手局を選択する(つづき)

Step1.通話チャンネル番号の選択(つづき)

●「全体」/「基地」/「個別」表示から選択する場合

下記の表示(☞P10)から通話チャンネル番号を選択する操作です。

① **[機能]**スイッチを短く押します。
●「通話チャンネル」を表示します。

通話チャンネル番号表示

② [▼]/[▲]スイッチを押して、「通話チャンネル番号」を選択します。

2チャンネルを選択したとき

例:漢字表示

※**[機能]**スイッチを短く押すごとに、「通話チャンネル」→「ユーザーコードグループ」→「個別(相手局)番号」の順に表示が切り替わります。

3 相手局を選択する(つづき)

Step2.「全体」/「基地局番号」/「個別番号」/「グループ番号」表示の選択

〈相手局番号の表示について〉

次の4種類があり、呼び出す相手を指定(個別呼び出し機能を使用)するときの番号を表示します。

全体呼び出し→→→→→→→→→→→→→

一斉に全局を呼び出す。

基地局呼び出し→→→→→→→→→→→→→

基地局番号に指定された局を呼び出す。

個別呼び出し→→→→→→→→→→→→→

「個別0001」〜「個別9999」のうち1局を選択して呼び出す。

グループ呼び出し→→→→→→→→→→→

「グループ0001」〜「グループ9999」のうち1グループを選択して呼び出す。

※このグループ番号のメンバーになっている局を呼び出します。

※工場出荷時、グループは最大10グループ(「グループ0001」〜「グループ0010」)使用できるようになっています。
グループ数の変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

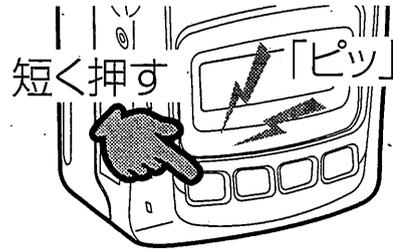
※呼出用チャンネル(15チャンネル)では、個別呼び出し機能を使用できません。

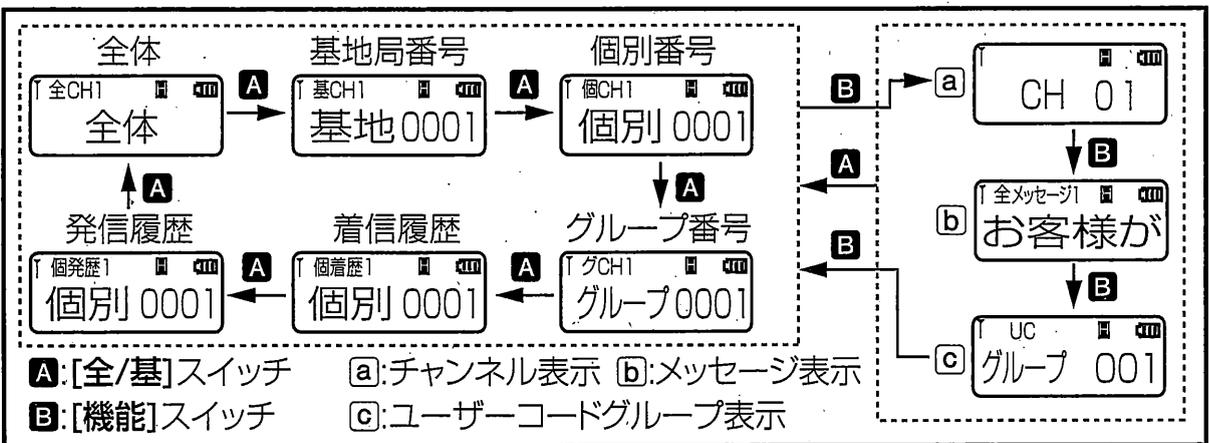
3

3 相手局を選択する(つづき)

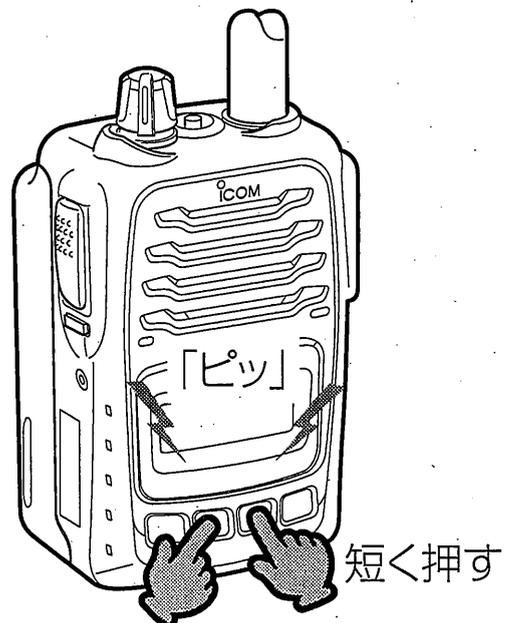
Step2.「全体」/「基地局番号」/「個別番号」/「グループ番号」表示の選択(つづき)

[全/基]スイッチを短く押すごとに、**「全体」→「基地局番号」→「個別番号」→「グループ番号」→「着信履歴」→「発信履歴」**の順に表示が切り替わります。

※「全体」/「基地局番号」表示を選択したときは、「4 呼び出しをする」(☞P12)の操作に進みます。

※「着信履歴」、「発信履歴」を表示する場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

〈表示の流れ〉

Step3.「個別番号」/「グループ番号」の選択

個別番号/グループ番号を選択するときは、それぞれの表示画面で[▼]/[▲]スイッチを押します。

※Step2.の「全体」/「基地局番号」表示の状態(☞P10、P11)でも、[▼]/[▲]スイッチを押すと個別番号が選択できます。

4 呼び出しをする

【ご注意】
ほかに通信する無線局がないことを確認(**[状態表示]**ランプが緑色に点灯していないなど)してから呼び出してください。
[状態表示]ランプが緑色に点灯中は、キャリアセンス機能(P17)によって送信できない場合があります。

[PTT]スイッチを押すと、**[状態表示]**ランプが赤色に点灯します。**[PTT]**スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって
『**こちらは××局です。**
○○さんどうぞ。』
と呼びかけたら、**[PTT]**スイッチをはなします。

【ご参考】
[PTT]スイッチを押したとき、「**ピピッ**」という音が鳴る場合は、個別呼び出し機能が設定されています。
「**ピッ**」という音が鳴る場合は、個別呼び出し機能が設定されていません。

■ アンサーバック機能

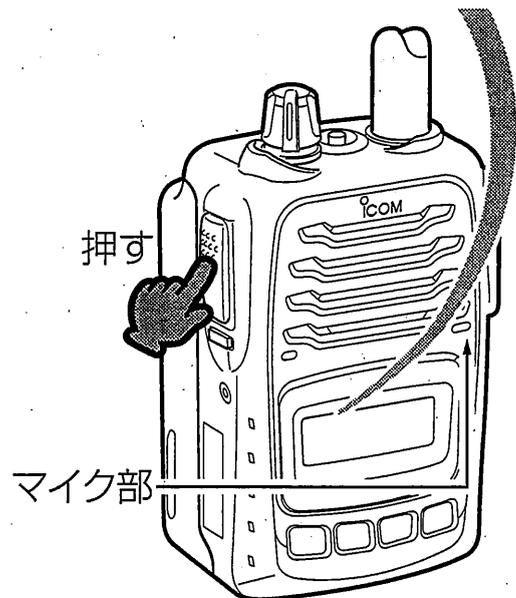
個別呼び出し機能が設定された無線機は、アンサーバック機能が設定されていると、相手局が通信圏内にいるかどうかを確認できます。
確認するときは、信号を受信していない状態で**[PTT]**スイッチを短く押します。
相手局が通話圏内の場合、ビープ音が1回だけ「**ピッ**」(**[状態表示]**ランプが緑色に1回点灯)と鳴ります。
※「全体呼び出し」、「グループ呼び出し」では動作しません。

3

5 呼び出しを受ける

個別呼び出しを受けたときだけ、🔔(ベル)表示、相手局の個別番号、「個着信」が点滅します。

※「着信」表示が点滅中は[▼]/[▲]スイッチは操作できません。[全/基]スイッチを押すと、点滅が停止しスイッチを操作できます。

その状態で[PTT]スイッチを押しながら、マイク部に向かって
『**こちらは○○局です。**
××さんどうぞ。』
と応答します。

■ ポケットビープ

🔔(ベル)が表示されている無線機で動作します。
呼び出しを受けたとき、ビープ音でお知らせする機能です。
いずれかのスイッチを操作すると、停止できます。
※相手局から**「全体呼び出し」**、または**「グループ呼び出し」**を受けたときは、鳴りません。

■ 着信表示

「着信表示」が設定されていると、個別呼び出しを受けたときだけ、**[状態表示]**ランプが橙色に点滅します。
[MONI]または**[全/基]**スイッチを押すと、点滅が停止します。
※設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。

6 交信する

相手局から呼び出しを受けた状態(☞P13)から、送信と受信を交互に繰り返すと、交信できます。

※双方同時に送信しても、交信できません。

※送信の終わりに『どうぞ』と言葉を添えると、スムーズに交信できます。

個別呼び出しで交信中

交信中は、「通話」表示を点滅します。

再度相手局を呼び出すときは、呼び出しをする前の表示に戻ってから**[PTT]**スイッチを押します。

※送信中は音量を変更できません。

※**[PTT]**スイッチをはなしたあと、「通話」表示が点滅中は**[▼]**/**[▲]**/**[機能]**スイッチは操作できません。

■ 交信時のアドバイス

1.マイクロホンの使いかた

●マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。
マイクロホンを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、明りょう度が悪くなることがありますのでご注意ください。

●[PTT]スイッチを押すと、**「ピッ」**、または**「ピピッ」**という音が鳴ります。
そのあとマイクロホンに向かって話してください。

2.個別呼び出しについて

個別呼び出しをするときは、「通話チャンネル番号」(☞P8)と「個別番号」(☞P11)を相手局と同じにしてください。

3.相手局から応答がないときは

相手が無線機からはなれている場合や、電波を受信できない場所に移動したなどの理由で応答がないときは、再度[PTT]スイッチを押すと送信できます。

個別呼び出しをしたとき

4.交信する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して交信してください。
また、テレビやラジオなどの家電製品や、パソコンおよび電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

■ ロック機能

不用意に[全/基]/[▼]/[▲]/[機能]/[プライベートチャンネル]スイッチ、[電源/音量]ツマミにふれても、表示や音量が変わらないようにする機能です。

[機能]スイッチを長く押すと「**ピピッ**」と鳴って、表示部に「⊶」が点灯します。
同じ操作をすると、ロック機能を解除します。

■ モニター機能

受信音がない状態で音量を調整するときに便利な機能です。
モニター機能が有効になっているあいだ、「ザー」という音が聞こえます。
その音を聞きながら音量を調節してください。
[MONI]スイッチを押すと、モニター機能が有効になります。
[MONI]スイッチをはなすと、モニター機能を解除します。
※設定により、動作が異なる場合があります。
※「詳細セットモード」で設定できます。

■ Pベル機能

応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)する機能です。

Pベル機能をONにすると、全体呼び出し、グループ呼び出し、個別呼び出しのいずれの着信があった場合でも、相手の音声をミュート(聞こえないように)して、着信をブザー（ピー音、3回)でお知らせします。
Pベル機能がONに設定されているときは、表示部に「P」が点灯します。
[PTT]スイッチを押して応答すると、音声ミュートを解除し、音が聞こえます。
※「セットモード」、「詳細セットモード」で設定できます。

■ キャリアセンス機能

本製品はキャリアセンス機能を搭載しています。
電波法に基づき、送信しようとするチャンネルで、先に通話している局が存在した場合、**[PTT]**スイッチを押しても、「ブッブッブッ・・・」と鳴って送信できません。
その場合は他局の通話が終わったあとで、再度送信してください。

【ご参考】
出荷時は「キャリアセンス省略の解除条件」が「3(秒)」に設定されています。この場合、次のような動作をします。

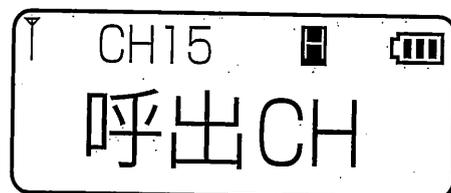
- 発信や応答ができて、通話に入るとキャリアセンス機能が停止します。
- 通話が3秒以上途切れると、キャリアセンス機能が動作します。
- キャリアセンス機能が停止して5分経過すると、キャリアセンス機能が動作します。送信中に再動作した場合、送信を停止し、キャリアセンスを行います。

※「キャリアセンス省略の解除条件」が「OFF」に設定されている場合は、キャリアセンスが常に動作します。
「キャリアセンス省略の解除条件」の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ プライベートチャンネル機能

[プライベートチャンネル]スイッチを押し続けると、設定されたプライベートチャンネルに移動します。
[プライベートチャンネル]スイッチをもう一度押し続けると、プライベートチャンネルを解除します。
※「詳細セットモード」で設定できます。

■ 呼出用チャンネル

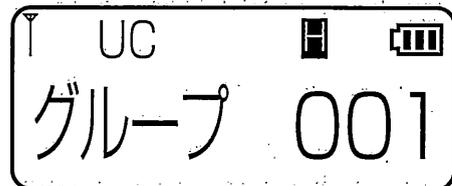
15チャンネル(CH15)は呼出用チャンネルとなっています。
呼出用チャンネルでは、個別呼び出し、ユーザーコード機能、秘話機能を設定した通話ができませんので、ご注意ください。

呼出用チャンネル

■ 送信時間制限装置

1回の送信で連続して送信できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。
送信時間制限10秒前になると、ビープ音が「ピッ」と鳴ります。
1回の送信時間が5分になると、警告音が「ブッ」と鳴って、自動的に送信を停止します。
※このあと1分間送信できなくなります。
※1分後に**[PTT]**スイッチを押すと、再度呼び出しできます。

■ ユーザーコードグループ

送信側に設定したユーザーコードと受信側に設定したユーザーコードが一致している場合だけ交信できる機能です。
※送信側、受信側の通話チャンネルは同じに設定してください。

①ユーザーコードグループ設定が表示されるまで、**[機能]**スイッチを繰り返し短く押します。
②[▼]/[▲]スイッチを押して、「ユーザーコードグループ番号」を選択します。
③**[機能]**スイッチを押すと、ユーザーコードグループ番号を設定して、ユーザーコードグループ表示を解除します。

ユーザーコードグループ設定

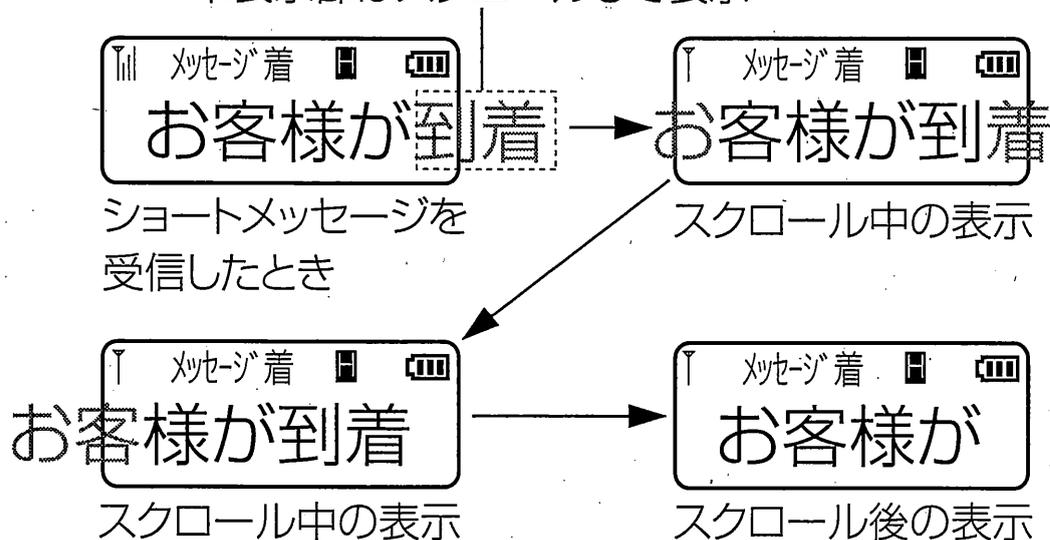
※ユーザーコードグループは、すべてのチャンネルで共通です。
※チャンネルごとにユーザーコードを設定する場合、詳細セットモードの「ユーザーコードの設定」項目を「CH毎」に設定して、「CH毎ユーザーコードの設定」でユーザーコードを設定してください。(☞P28)
※呼出用チャンネル(15チャンネル)では、ユーザーコード機能は使用できません。

■ 送信出力切り替え

[全/基]スイッチを長く(約1秒)押すごとに、送信出力をハイパワー(5W)、ローパワー(1W)に切り替えます。
ハイパワー選択時は「H」が、ローパワー選択時は「L」が点灯します。
※設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。
※「セットモード」、「詳細セットモード」でも送信出力を設定できます。

■ ショートメッセージ機能

ショートメッセージ機能が設定されていると、**[PTT]**スイッチを押して送信するごとに、設定されたショートメッセージを送信します。
※設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。
※操作のしかたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
※受信側では、受信したメッセージをスクロール表示します。
※**[▼]**、**[▲]**、**[機能]**スイッチを押すと、受信したメッセージを再度スクロール表示します。
※**[全/基]**スイッチを押すと、メッセージ表示を解除します。

(例)「お客様が到着」のメッセージを受信したとき

お好みの運用状況に応じて、設定項目を「セットモード」または「詳細セットモード」から変更できます。

【ご注意】設定できる項目が異なる場合があります。

「セットモード」では通常よく使用する設定項目が設定できます。

■「セットモード」に移行するには

①**[電源/音量]**ツマミを反時計回りに回して、本製品の電源を切ります。

②**[機能]**スイッチを押しながら、**[電源/音量]**ツマミを回して、電源を入れます。
表示部に**「MODE CHG」**と表示されます。

MODE CHG

③押している**[機能]**スイッチから指をはなして、**[機能]**スイッチを短く押しなおします。
●ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、設定項目を表示します。

SET
SET

セットモードへ移行時

④項目の選択は、**[全/基]**または**[機能]**スイッチを短く押すごとに、「❶Pベル機能の設定」、「❹送信出力の設定」、「❺マイクゲインの設定」、「⓯発着信履歴消去設定」、「㉑設定値のリセット」の項目が切り替わります。
※項目は設定により異なる場合があります。

⑤設定内容の変更は、**[▼]/[▲]**スイッチを押します。

⑥**[PTT]**スイッチを押すと、変更内容を確定して、**「セットモード」**を解除します。
※ほかの設定項目に移動(手順④)後、電源を切った場合も、設定内容を確定して**「セットモード」**が解除されます。
※**「セットモード」**を解除するまで通話できません。
電源を入れなおしてから通話を確認してください。

■「詳細セットモード」に移行するには

「詳細セットモード」では、すべての設定項目が設定できます。

【ご注意】設定できる項目が異なる場合があります。

①**[電源/音量]**ツマミを反時計回りに回して、本製品の電源を切ります。

②**[▼]**、**[▲]**、**[機能]**スイッチを押しながら、**[電源/音量]**ツマミを回して、電源を入れます。
表示部に**「MODE CHG」**と表示されます。

MODE CHG

③押している**[▼]**、**[▲]**、**[機能]**スイッチから指をはなして、**[機能]**スイッチを短く押しなおします。
●ビープ音が**「ピピッ」**と鳴って、**「SET」**を表示したあと、設定項目を表示します。

SET
SET

セットモードへ移行時

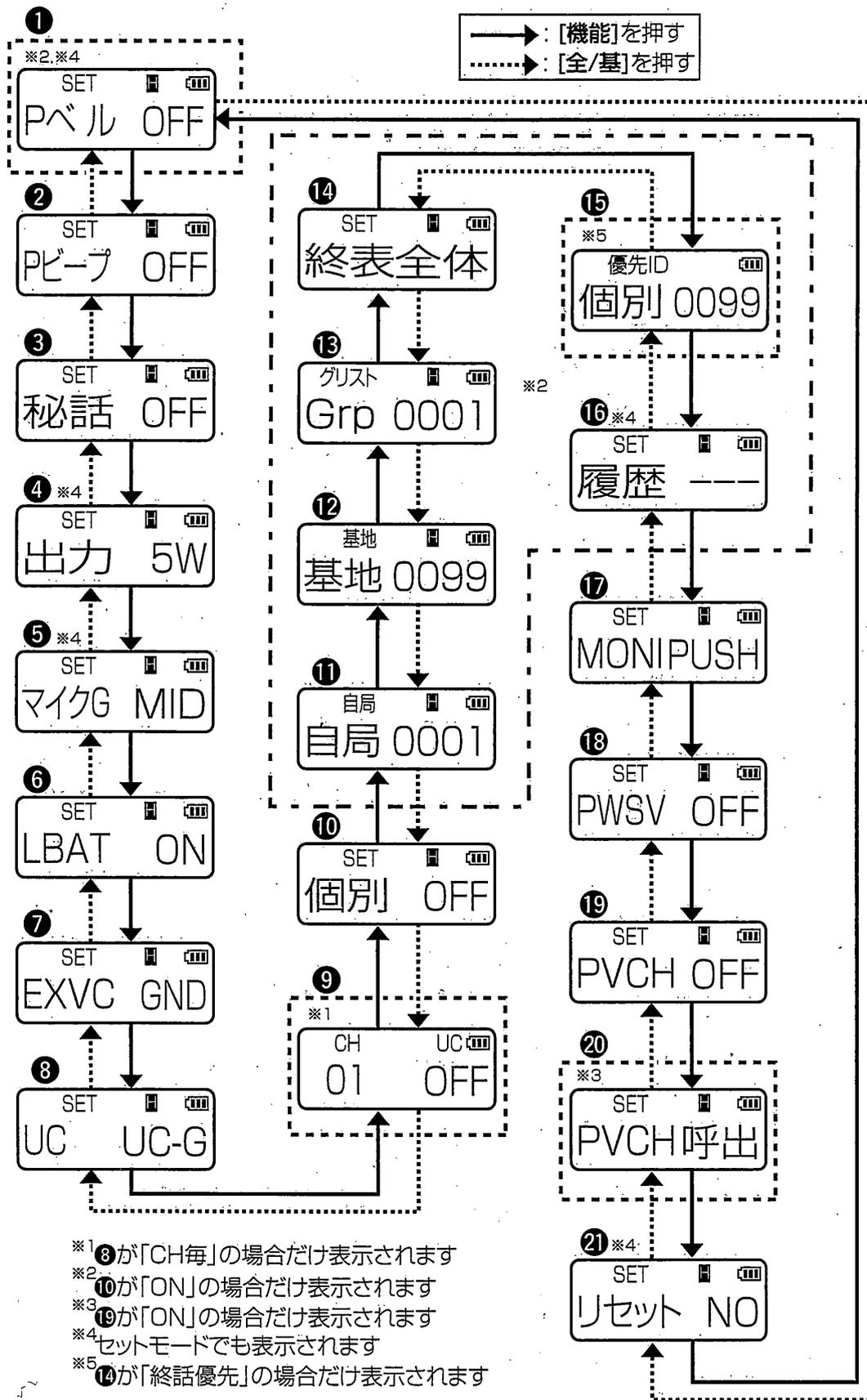
④項目の選択は**[全/基]**スイッチ、または**[機能]**スイッチを短く押すごとに、次のページのように項目が切り替わります。
※項目は設定により異なる場合があります。

⑤設定内容の変更は、**[▼]**/**[▲]**スイッチを押します。

⑥**[PTT]**スイッチを押すと、変更内容を確定して、**「詳細セットモード」**を解除します。
※ほかの設定項目に移動(手順④)後、電源を切った場合も、設定内容を確定して**「詳細セットモード」**が解除されます。
※**「詳細セットモード」**を解除するまで通話できません。
電源を入れなおしてから通話を確認してください。

■ 設定一覧

※1 ❽が「CH毎」の場合だけ表示されます
※2 ❿が「ON」の場合だけ表示されます
※3 ⓳が「ON」の場合だけ表示されます
※4 セットモードでも表示されます
※5 ⓮が「終話優先」の場合だけ表示されます

5

5 セットモードについて

●「セットモード」時に表示される項目

❶ Pベル機能の設定(☞P24)
❹ 送信出力の設定(☞P26)
❺ マイクゲインの設定(☞P27)
⓰ 発着信履歴消去設定(☞P31)
㉑ 設定値のリセット(☞P33)

●「詳細セットモード」時に表示される項目

❶ Pベル機能の設定(☞P24)
❷ ポケットビープの設定(☞P25)
❸ 秘話機能の設定(☞P25 ~ P26)
❹ 送信出力の設定(☞P26)
❺ マイクゲインの設定(☞P27)
❻ ローバッテリーの設定(☞P27)
❼ 外部電源初期値の設定(☞P27)
❽ ユーザーコードの設定(☞P28)
❾ CH毎ユーザーコードの設定(☞P28)
❿ 個別呼び出し設定(☞P28)
⓫ 自局番号の設定(☞P29)
⓬ 基地局番号の設定(☞P29)
⓭ グループ設定(☞P29)
⓮ 終話後表示の設定(☞P30)
⓯ 優先個別番号の設定(☞P30)
⓰ 発着信履歴消去設定(☞P31)
⓱ モニタースイッチ動作の設定(☞P31)
⓲ パワーセーブの設定(☞P32)
⓳ プライベートチャンネルへの移動機能の設定(☞P32)
⓴ プライベートチャンネルの設定(☞P32)
㉑ 設定値のリセット(☞P33)

■ 設定項目について

❶ Pベル機能の設定(出荷時の設定:OFF)

Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※この項目は❿が「ON」の場合だけ表示されます。

※この項目は「セットモード」で設定できます。

SET Pベル OFF

SET Pベル BOF

- OFF :着信と同時に、相手の音声が聞こえる
- BON :応答するまで相手の音声をミュートし、音声のミュートと同時に、呼び出しを受けたことをブザー(ピー音、3回)で知らせる
- BOF :応答するまで相手の音声をミュートし、ブザーを鳴らさない

【BON、BOFに設定した場合】

※無線機の表示部には、Ⓟを表示します。

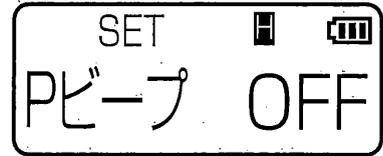
※お買上げ時、ブザー出力が「BON」に設定されている無線機は、音声のミュートと同時に、呼び出しを受けたことをブザー(ピー音、3回)でお知らせします。
ポケットビープが設定されている無線機は、このブザーが鳴ったあと、つづけて鳴ります。
また、ブザー出力が「BOF」に設定されている無線機は、ブザー、ポケットビープの両方とも鳴りません。

5

❷ ポケットビープの設定(出荷時の設定:OFF)

ポケットビープ(着信時の呼び出し音)のパターンを設定します。

- OFF :ポケットビープを使用しない
- 3OF :30回鳴る
- 3F :3回鳴る
- MIN :3回鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- CON :3回鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- PIー :「ピー」音が鳴る
- PPP :「ピピピ」音が鳴る

※ グループ、または全体呼び出しを受信したときは、ポケットビープを設定していても鳴りません。

❸ 秘話機能の設定(出荷時の設定:OFF)

秘話キーの一致しない相手には、通話内容が雑音にしか聞こえないため他局に通話内容を盗聴されるのを防止します。

また、ユーザーコード機能と併用できます。

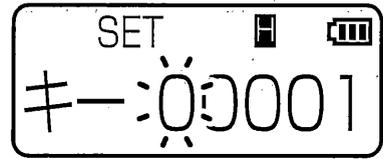
- OFF :秘話機能を使用しない
- キーID1～ID16 :秘話機能を使用し、キーIDをID1～ID16の中から選択する

※交信するすべての無線機で同じ設定にしてください。

※機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

❸ 秘話機能の設定(出荷時の設定:OFF)のつづき

「秘話機能」の設定で、キーIDをID1～ID16のいずれかに設定したときに、**[機能]**スイッチを長く押すと、「秘話キー」設定画面に切り替わります。

選択した秘話キーIDに割り当てる秘話キーを設定します。

※**[▼]/[▲]**スイッチを押すごとに、数値がダウン/アップします。

※**[機能]**スイッチを短く押すごとに、設定するケタが右に移動します。

※**[全/基]**スイッチを短く押すごとに、設定するケタが左に移動します。

※設定が完了したあとで**[機能]**スイッチを長く押すと、「秘話キー」設定画面を解除します。

● 選択範囲:00001～32767

❹ **送信出力の設定**(出荷時の設定:5W)

送信出力を設定します。

※この項目は「セットモード」で設定できます。

- 5W　:送信出力を5Wに設定する
- 1W　:送信出力を1Wに設定する
- CH　:チャンネルごとの送信出力を設定する

❺ マイクゲインの設定(出荷時の設定:MID)

マイクゲインを設定します。

※この項目は「セットモード」で設定できます。

SET
マイクG MID

SET
マイクG HI

- MID :マイクゲインを中にする
- HI :マイクゲインを高にする
- LOW :マイクゲインを低にする

【ご参考】

マイクゲインをLOWにすると、周りの雑音など、小さな音を抑えることができます。
マイクゲインをHIにすると、小さな声でも通話できますが、周りの雑音や騒音なども相手に聞こえることがあります。

❻ 電圧低下検出の設定(出荷時の設定:ON)

バッテリーパックの電圧が低下したとき、バッテリーパック保護のために、無線機本体の電源を自動的にOFFにする機能を設定します。

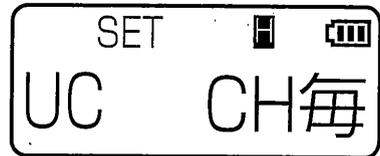
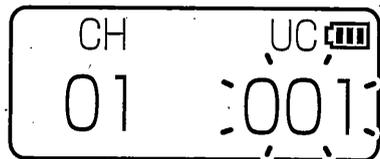
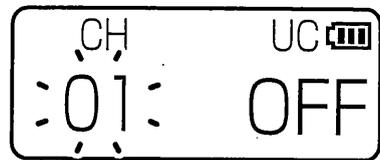
- ON :電圧が低下したとき、無線機本体の電源をOFFにする
- OFF :電圧が低下しても、無線機本体の電源をOFFにしない

❼ 外部電源初期値の設定(出荷時の設定:GND)

外部電源端子(保護カバー内側の端子)の初期値を設定します。

- GND :電源投入後、外部電源端子から電圧を出力しない
- 5V :電源投入後、外部電源端子から電圧を5Vで出力する

※相手局から外部電源制御を受けても、無線機の電源を入れなおすと、この項目で選択した状態に戻ります。

❽ ユーザーコードの設定(出荷時の設定:UC-G)
ユーザーコードを設定します。
- UC-G :ユーザーコードグループを使用する
- CH毎 :チャンネルごとのユーザーコードを使用する

❾ CH毎ユーザーコードの設定(出荷時の設定:OFF)
※この項目は❽が「CH毎」の場合だけ表示されます。
チャンネルごとのユーザーコードを設定します。
- CHの選択範囲 :01～30
  ※15チャンネルはユーザーコードを設定できません。
- UCの選択範囲 :OFF、001～511

❿ 個別呼び出し設定(出荷時の設定:OFF)
個別番号を用いた特定の局を個別に呼び出す機能について設定します。
- OFF :個別呼び出し機能を使用しない
- ON :個別呼び出し機能を使用する

※同一チャンネルの無線機を個別に呼び出せます。
※自局番号、基地局番号、グループ番号の設定は次のページをご覧ください。

【重要】個別呼び出し機能を使用する場合は、[パワーセーブ]項目(☞P32)を「OFF」にしてから使用してください。

⑪ 自局番号の設定(出荷時の設定:0001)

個別呼び出しに使用する自局の個別番号を個別番号設定の内容から設定します。

※この項目は⑩が「ON」の場合だけ表示されます。

- 選択範囲:0001～0119

自局
自局 0001

自局
自局 0119

⑫ 基地局番号の設定(出荷時の設定:0099)

個別呼び出しに使用する基地局の個別番号を個別番号設定の内容から設定します。

※この項目は⑩が「ON」の場合だけ表示されます。

- 選択範囲:0001～0119

基地
基地 0099

基地
基地 0119

⑬ グループ設定(出荷時の設定:グループID)

個別呼び出しに使用するグループの参加/不参加を設定します。

※この項目は⑩が「ON」の場合だけ表示されます。

- グループの選択範囲:0001～0010

グリスト
Grp 0001

グリスト☒
Grp 0010

グループを選択して**[MONI]**スイッチを押すごとに、「グループID」、「メンバーとなるグループID」の切り替えができます。

- グリスト:グループID
  このグループ番号の呼び出しは受けません。
  (このグループ番号を選択して、呼び出すことはできます。)
- グリスト☒:メンバーとなるグループID
  このグループ番号を呼び出すことも、呼び出しを受けることもできます。

※「メンバーとなるグループID」選択時、表示部に「☒」が点灯します。

⓮ 終話後表示の設定(出荷時の設定:全体)

通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部の表示をどの状態にするかを設定します。

※この項目は❿が「ON」の場合だけ表示されます。

SET H 終表全体

SET H 終表話中

- 終表全体 :全体呼び出し表示[全体]を表示する
- 終表基地 :[基地局番号]項目(⓬)で設定された基地局番号を表示する
- 終表個別 :個別番号を表示する
- 終表GRP :グループ番号を表示する
- 終表着歴 :着信履歴を表示する
- 終表発歴 :発信履歴を表示する
- 終表優先 :[優先個別番号]項目(⓯)で設定された個別番号を表示する
- 終表話前 :通話前に表示していた内容を、再度表示する
- 終表話中 :通話中に表示していた内容を、そのまま継続して表示する

⓯ 優先個別番号の設定(出荷時の設定:個別0099)

通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部に表示する個別番号を設定します。

※この項目は⓮が「終表優先」の場合だけ表示されます。

優先ID 個別0099

優先ID Grp 0001

- 選択範囲: 個別0001~0119
  グループ0001 ~ 0010

⑯ 発着信履歴消去設定(出荷時の設定:−−−)

自局番号の設定/基地局番号の設定/グループ設定を変更したとき、この機能で発着信履歴を削除してください。

※この項目は⑩が「ON」の場合だけ表示されます。

※この項目は「セットモード」で設定できます。

- **−−−**　:何もしない
- **CLR**　:履歴を削除する

⑰ モニタースイッチ動作の設定(出荷時の設定:PUSH)

[MONI]スイッチを押したときのモニター機能や表示切り替えの動作状態を設定します。

- PUSH　:押しているあいだだけモニター機能がONに切り替わる
- 全体　:押すと「全体」表示に切り替わる
- 基地　:押すと「基地局番号」表示に切り替わる
- 個別　:押すと「個別番号」表示に切り替わる
- GRP　:押すと「グループ番号」表示に切り替わる
- 着歴　:押すと「着信履歴」表示に切り替わる
- 発歴　:押すと「発信履歴」表示に切り替わる
- CH　:押すと「メモリーチャンネル」表示に切り替わる
- MSG　:押すと「ショートメッセージ」表示に切り替わる
- UC　:押すと「ユーザーコードグループ」表示に切り替わる
- OFF　:**[MONI]**スイッチが動作しない
- TGL　:押すごとにモニター機能のON/OFFが切り替わる

※電源を入れなおしたとき、モニター機能はこの設定に関わらずスケルチを閉じます。

⑱ パワーセーブの設定(出荷時の設定:OFF)

待ち受け状態が10秒を超えると自動的に動作して、消費電力を少なくする機能を設定します。

- **OFF** :パワーセーブ機能を使用しない
- **ON** :パワーセーブ機能を使用する

【ご注意】パワーセーブ機能を使用する場合は、[個別呼び出し設定](☞P28)を「OFF」にしてから使用してください。

⑲ プライベートチャンネルへの移動機能の設定

(出荷時の設定:OFF)

[プライベートチャンネル]スイッチを長く押したときの、プライベートチャンネルへの移動機能を設定します。

- OFF :**[プライベートチャンネル]**スイッチが動作しない
- ON :プライベートチャンネルに移動する

⑳ プライベートチャンネルの設定(出荷時の設定:呼出)

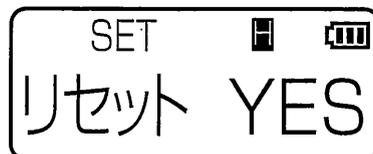
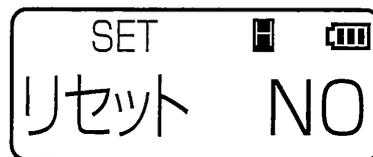
プライベートチャンネルへの移動機能動作時の、移動先チャンネルを設定します。

※この項目は⑲が「ON」の場合だけ表示されます。

- 選択範囲 :01～14、呼出(15)、16～30

㉑ 設定値のリセット(出荷時の設定:NO)

各種設定値を、工場出荷時の値に戻します。

- **NO** :設定値に影響を与えません。
- **YES** :この状態で**[PTT]**スイッチを押すと、各種設定値を工場出荷時の状態にします。

※「設定値のリセット」は、誤操作により設定値に影響を与えることを防ぐため、「YES」が選ばれた状態で他の項目に移動しても、設定値のリセットは行われません。

【ご注意】
- リセットすると、前の設定には戻せません。
- 「設定値のリセット」はバッテリーが十分ある状態で行ってください。また、設定値がリセットされ再起動するまで(約2秒)は、電源を切らないでください。
  ※設定値のリセット中に電源が切れると、修理が必要になる場合があります。

■ 別売品一覧表

[★]印のものは、無線機本体に装着することで、JIS保護等級7(防浸形)相当の防水性能に適合します。

バッテリー関係

- BP-220N★ :リチウムイオンバッテリーパックL
- BP-246★ :リチウムイオンバッテリーパックS
- BP-221 :アルカリ電池ケース(単3形アルカリ電池×5本)

充電する

- BC-161 :卓上急速充電器
  ※電源には、BC-165(別売品)が必要です
- BC-165 :ACアダプター (BC-161用の電源)
- BC-121NA :6連急速充電器(BC-157S/OPC-656別売)
- BC-157S :ACアダプター (BC-121NA用)
- OPC-656 :DC電源ケーブル(BC-121NA用)

スピーカーマイク関係

- EM-80 :スピーカーマイク
- HM-130★ :防水形スピーカーマイク
- HM-172★ :防水形スピーカーマイク
- HM-183SJ★ :防水形スピーカーマイク
- HM-186SJ :小型スピーカーマイク

スピーカー関係

- EH-11 :イヤーパッド型スピーカー (プラグ:2.5φ)
- EH-12 :ヘルメット取り付け型スピーカー (プラグ:2.5φ)

無線機を保護する

- LC-164 :ハードケースS(BP-246用)
  装着した状態でスイッチ操作と充電が可能
- LC-154 :ハードケースL(BP-220N/221用)
- ※LC-166 :装着した状態でスイッチ操作と充電が可能

マイクロホン/ヘッドセット関係

- ●HM-104　:単一指向性タイピン型マイクロホン
- ●HM-104A　:無指向性タイピン型マイクロホン
- ●HM-109　:接話タイピン型マイクロホン
- ●HM-163　:接話タイピン型マイクロホン(防水コネクター仕様)
- ●HM-147　:骨伝導マイク(TEMCO製)
- ●HS-86　:ヘルメット取り付け型ヘッドセット
- ●HS-88　:ヘッドセット
- ●HS-92　:ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
- ●HS-99*　:耳掛け式イヤホンマイク

*VS-2SJ(9ピン用VOXユニット)が別途必要です。

- ●OPC-636　:マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック仕様)
- ●OPC-637　:マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(アンロック仕様)

イヤホン関係

- ●EH-13　:耳掛け型イヤホン(プラグ:2.5φ)
- ●EH-14　:オープンエアー型イヤホン(プラグ:2.5φ)
- ●EH-15　:イヤホン(プラグ:2.5φ)
- ●SP-16　:耳掛け型イヤホン(プラグ:3.5φ、AD-52用)
- ●SP-28　:耳掛け型イヤホン(プラグ:2.5φ)

腰にかける

- ●MB-98　:ベルトクリップ
- ●MB-86　:回転式ベルトクリップ
- ●MB-97　:ベルトクリップ※(ステンレス製)

※挟む力は、「標準」か「強力」をご指定ください。

肩にかける

- ●MB-57L　:ショルダーストラップ(LC-154/164/166用)
- ●MB-80　:ショルダーストラップ(BP-220N/221/246用)

変換アダプター/アンテナ関係

- ●AD-52　:イヤホンジャックアダプター (ジャック:3.5φ)
- ●FA-S04U★　:防水形短縮アンテナ

■ 安全な充電のために

⚠ 危険

- 充電器は、必ず弊社指定の別売品をご使用ください。
- 指定(BP-220N/246)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- 「安全上のご注意」(☞Pxii～xviii)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

■ 電池の残量表示について

表示部のは、バッテリーパック(BP-220N/246)、アルカリ電池ケース(BP-221)の残量を表示します。

※交換時期になりましたら、バッテリーパックの場合は、充電し、電池の場合は、新しいアルカリ電池と交換してください。

表示	[バッテリーパック]/[アルカリ電池ケース]の状態
	十分に容量があります。
	電池が多少消耗していますが、運用できます。
	短時間であれば運用できます。
点滅	すぐに使えなくなりますので、電池の交換、充電が必要です。

■ 電池の残量警告音について

残量表示が 点滅 表示になると、残量警告音が「**ピーピーピー**」と、約30秒おきに繰り返し鳴ります。

警告音が鳴り出したらすぐに充電してください。

また、アルカリ電池ケースの場合は、BP-221に付属の取扱説明書を参考に、新しいアルカリ電池と入れ替えてください。

※ 点滅 表示の状態でご使用をつづけられますと、残量警告音が「**ピーピピピ･･･**」と鳴り、5秒後に無線機の電源が自動的に切れます。

6

■ バッテリーパックの定格について(別売品)

名称／定格項目			BP-220N		BP-246	
電池の種類			リ チ ウ ム イ オ ン			
電池の容量			2660mAh min. (2800mAh typ.)		1850mAh min. (1950mAh typ.)	
出力電圧			7.4V		7.4V	
寸法 (幅×高さ×奥行)			56×98.2×40.7		56×98.2×33.0	
			〈条件〉突起物は含まず／〈単位〉mm			
運用時間	パワーセーブ		ON	OFF	ON	OFF
	送信出力	1W	約27時間	約19時間	約17時間	約12時間
		5W	約18時間	約14時間	約11時間	約9時間
	〈条件〉送信5、受信5、待ち受け受信90の割合で繰り返し運用					
充電時間			約4時間		約2.5時間	
			〈条件〉BC-161、またはBC-121NAを使用時			

※BP-220N/246は、完全防水構造ではありません。
　無線機に装着することで、無線機本体の防水性能に適合します。
※バッテリーパックに異常があると思われたときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 急速充電器の定格について(別売品)

- **名　　　　称**：BC-161卓上急速充電器(AD-112付属)
- **定格入力電圧**：AC100V(50/60Hz) ※BC-165入力電圧
- **使用温度範囲**：0～40℃
- **保存温度範囲**：－10～＋70℃
- **重　　　　量**：約225g
- **寸　　　　法**：122.5(W)×59.7(H)×95.0(D)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。
※BC-121NAについては、BC-121NAに付属の取扱説明書をご覧ください。

■ 正しい充電のために

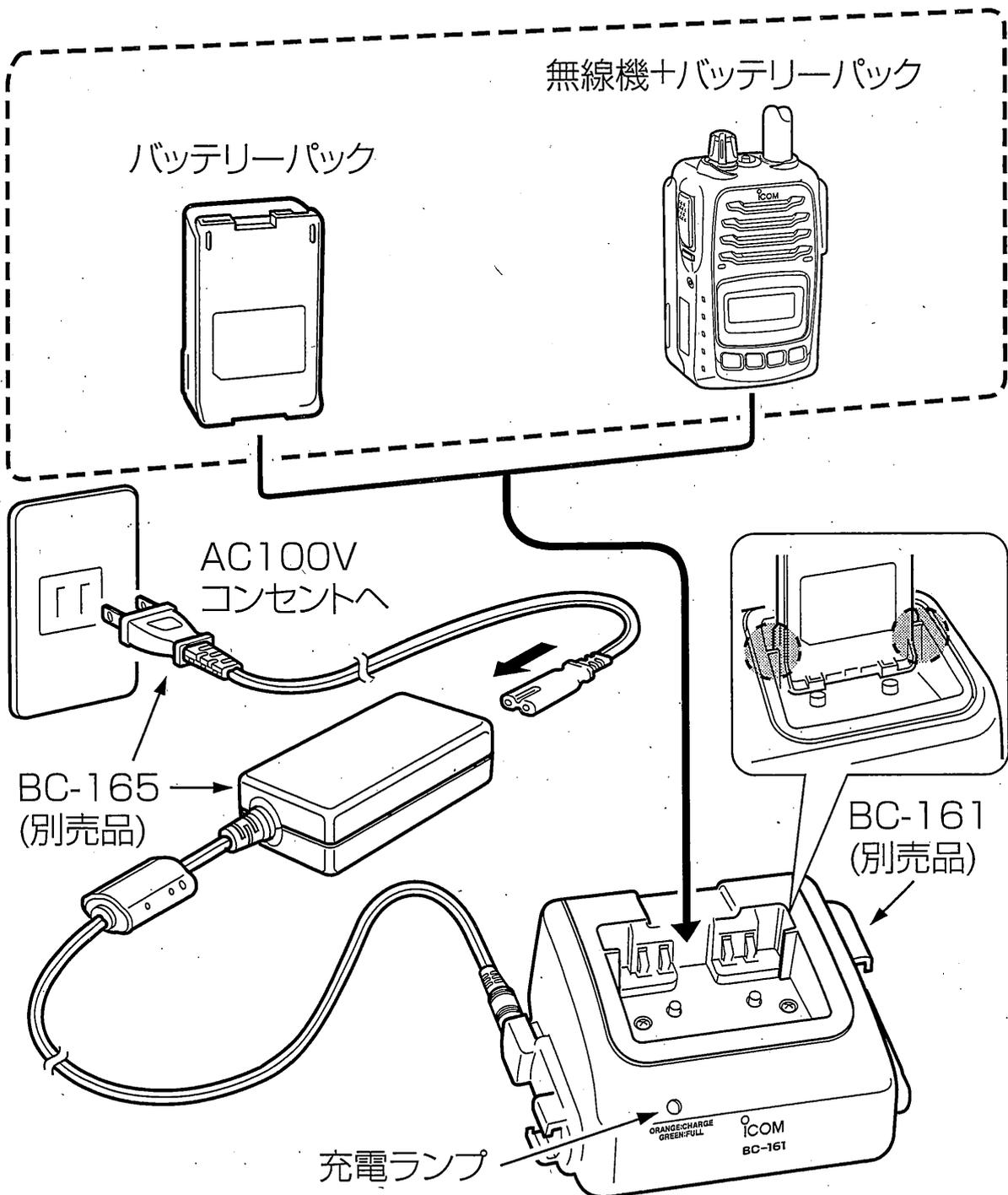
バッテリーパックを無線機本体に装着した状態で充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。
電源を切らない場合、充電が完了しません。

- お買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
  なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- 満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
  長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、バッテリー残量が中レベルを表示するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- 極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
  充電器は、次の環境でご使用ください。
  BC-161(卓上急速充電器)　:0～40℃
  BC-121NA(6連急速充電器)　:10～40℃
- バッテリーパックの寿命(充電回数)は、使用する頻度(ひんど)によりますが、約300回です。
  指定時間充電しても、数分後に表示部の残量表示が変化する(運用時間が極端に短い)ときは交換時期です。
- 充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、ときどきお手入れしてください。

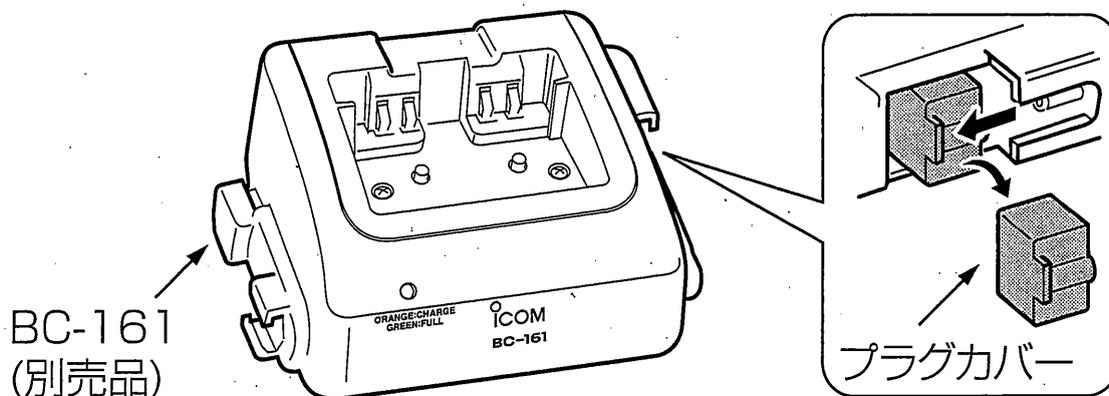
6

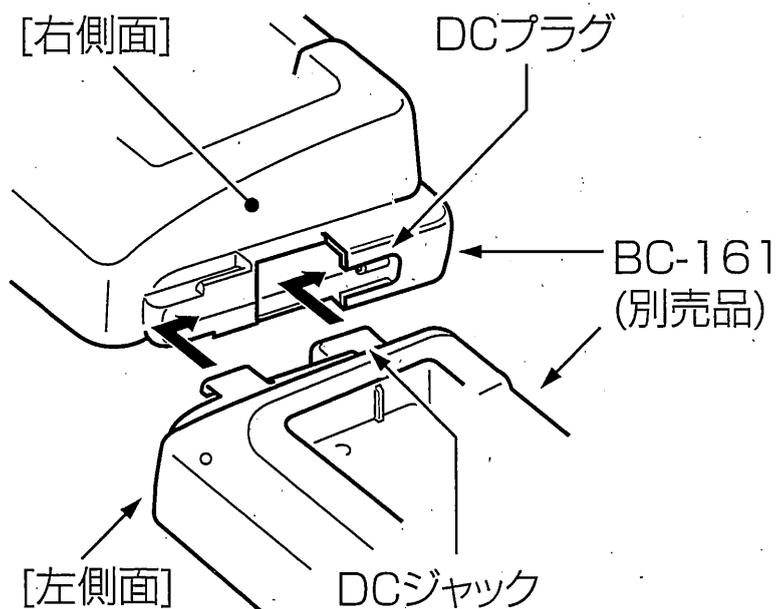
■ BC-161(卓上急速充電器):充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中は橙色に、充電完了後は緑色に点灯します。
※BC-161の電源には、必ずBC-165をご使用ください。
※赤点滅する場合は、58ページをご参照ください。

■ BC-161の連結充電について

充電器を最大4台まで連結して、同時に充電できます。

① 充電器の右側面に差し込まれているDCプラグカバーを図の方向に取りはずします。

② 右側面にあるDCプラグと、もう1台のBC-161(左側面)にあるDCジャックを「**カチッ** 」と音がするまで差し込みます。

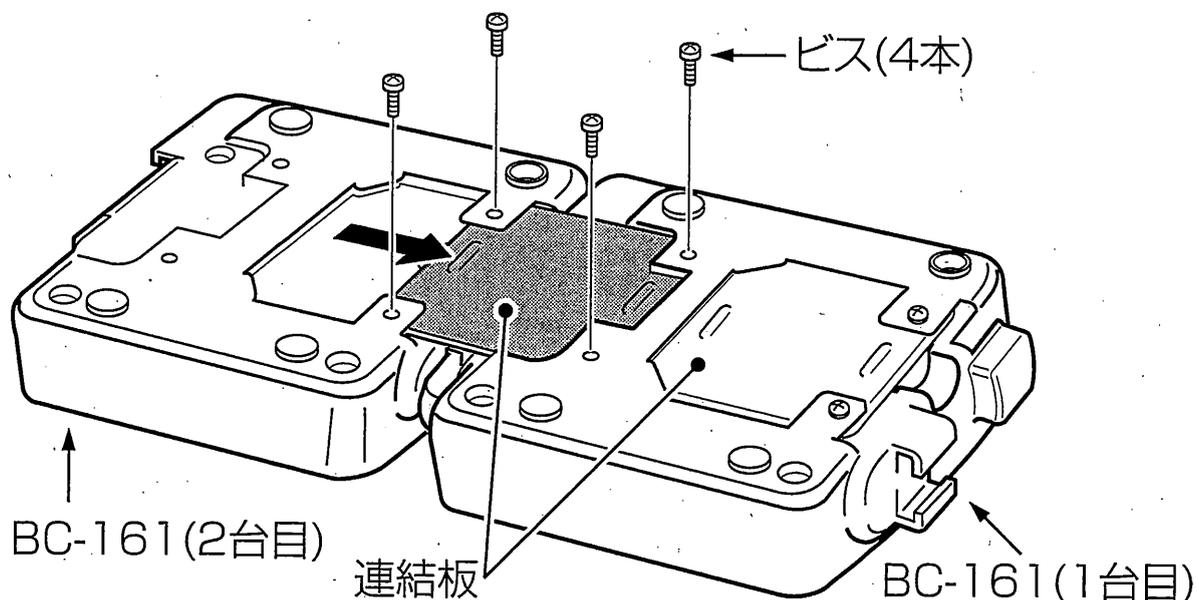
(手順③☞次ページへ)

⚠ 警告

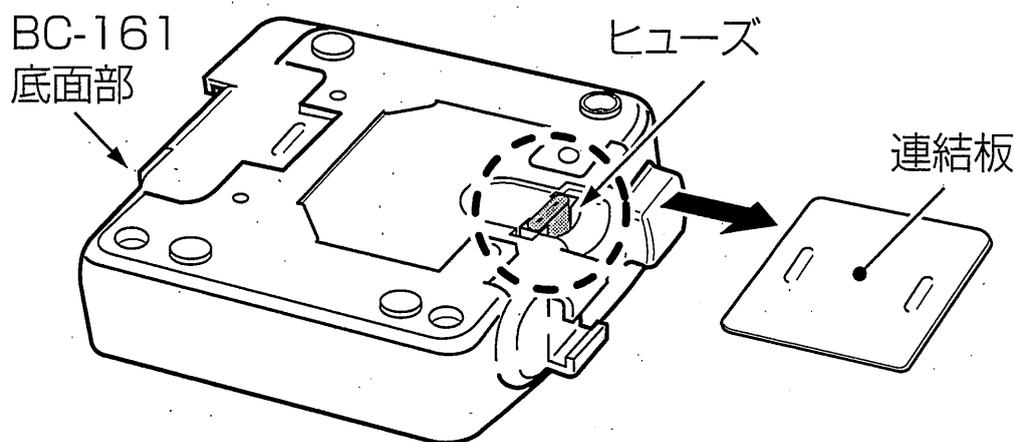
BC-161を連結して使用できるのは最大4台までです。それ以上の台数を連結して使用しないでください。

火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

(☞次のページにつづく)

■ BC-161の連結充電について(つづき)

③ 底面部(2台目の充電器)にある連結板を固定するビス(2本)を取りはずして、連結板を1台目の充電器の方に移動させます。取りはずしたビス(2本)と充電器に付属のビス(2本)で連結板を固定します。

■ BC-161のヒューズ交換について

ヒューズが切れ、充電ランプが点灯しないときは、原因を取り除いてから、下記のヒューズ(4A/32V)を取り替えてください。

■ BC-121NA(6連急速充電器):充電のしかた

バッテリーパック単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中は橙色に、充電完了後は緑色に点灯します。

※赤色に点滅する場合は、58ページをご参照ください。

※BC-121NAに付属の取扱説明書と併せてご覧ください。

無線機+バッテリーパック

バッテリーパック

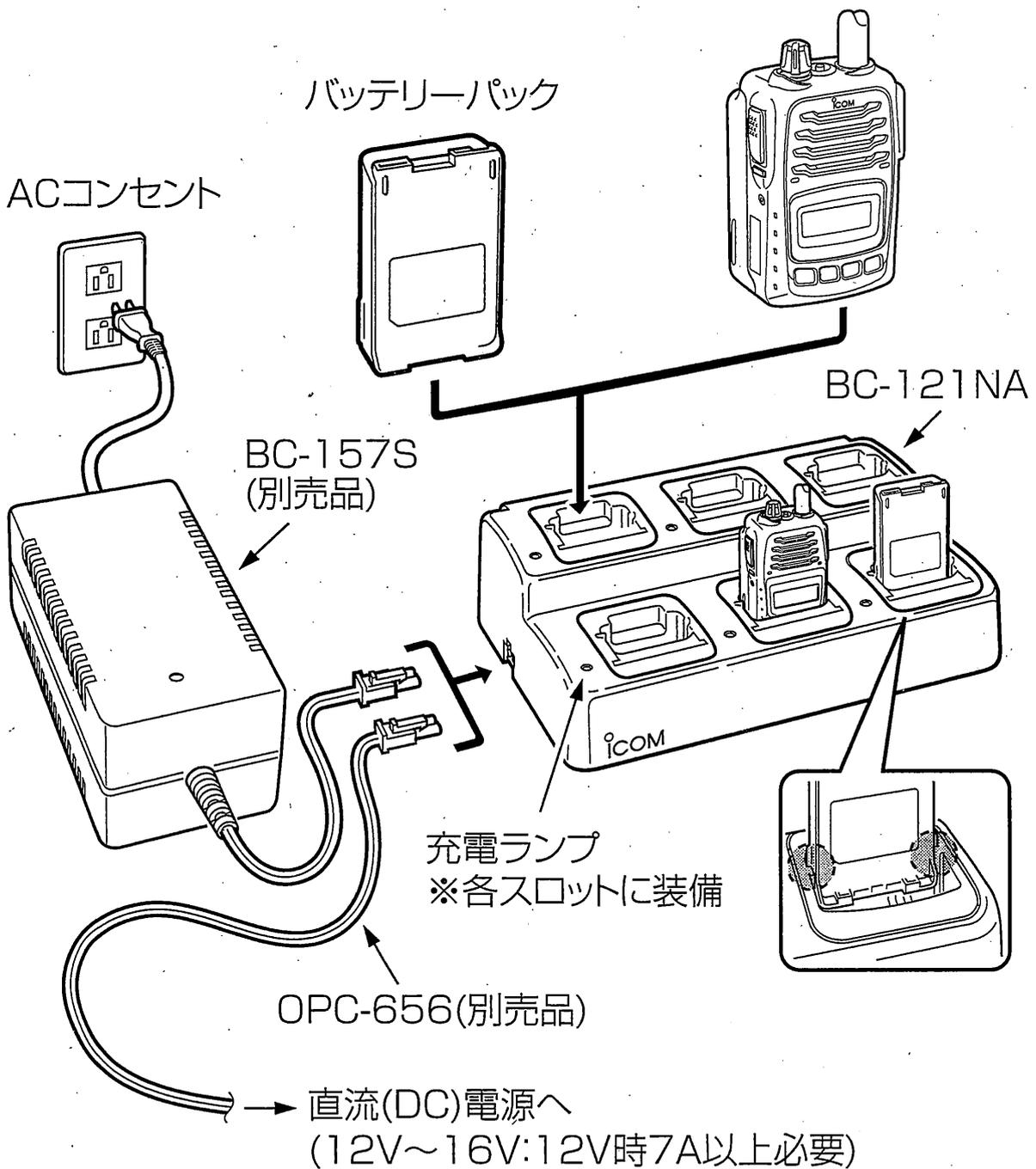
ACコンセント

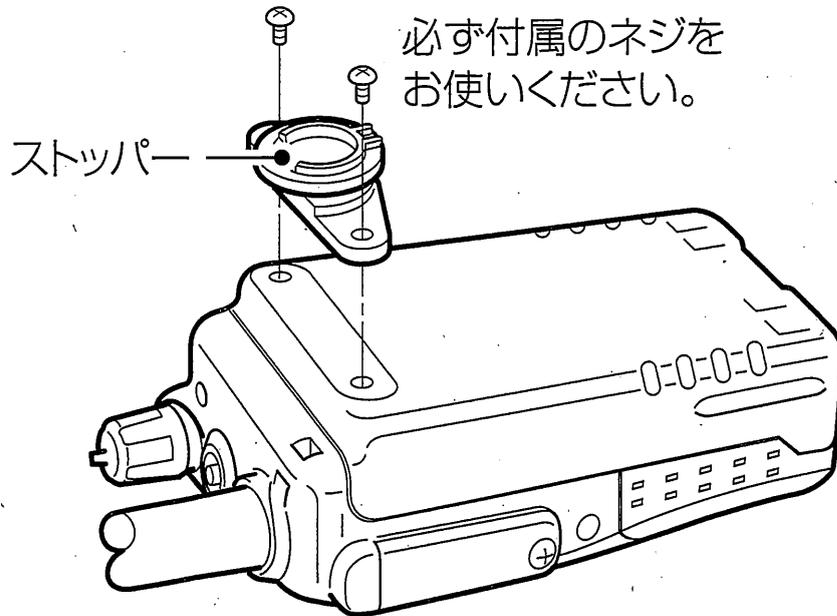
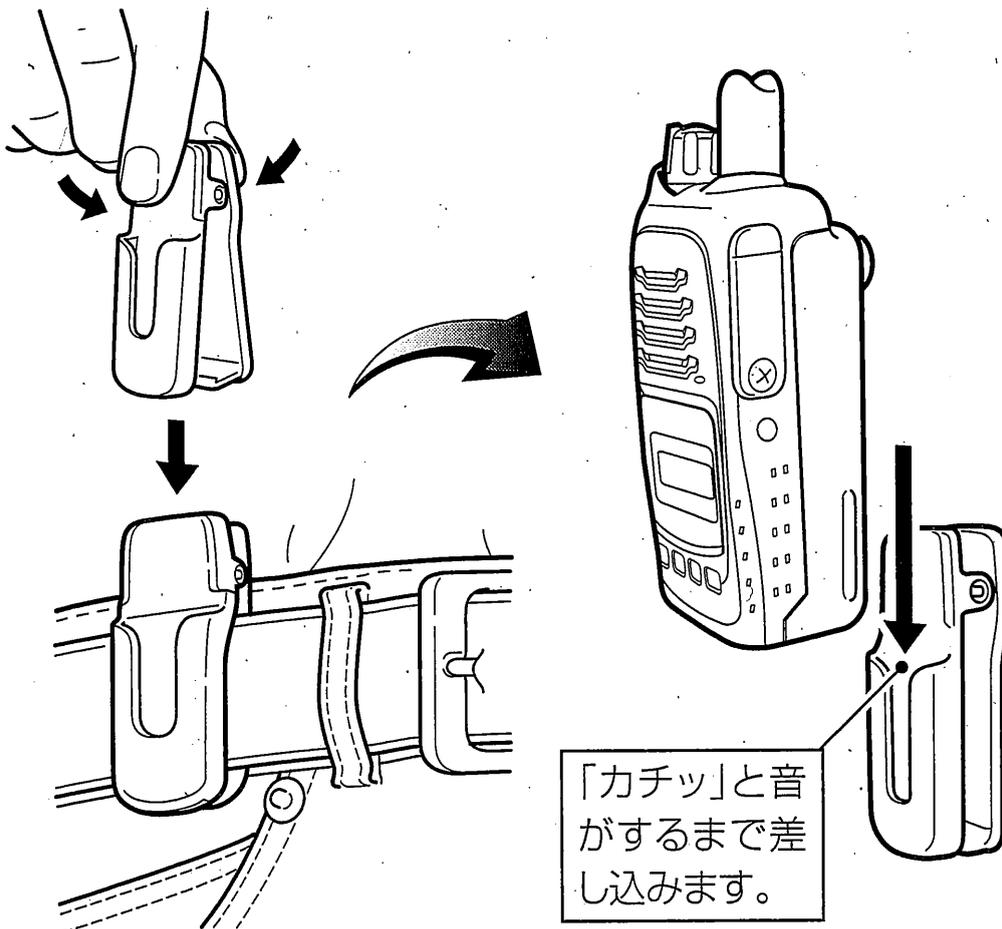
BC-121NA

BC-157S
(別売品)

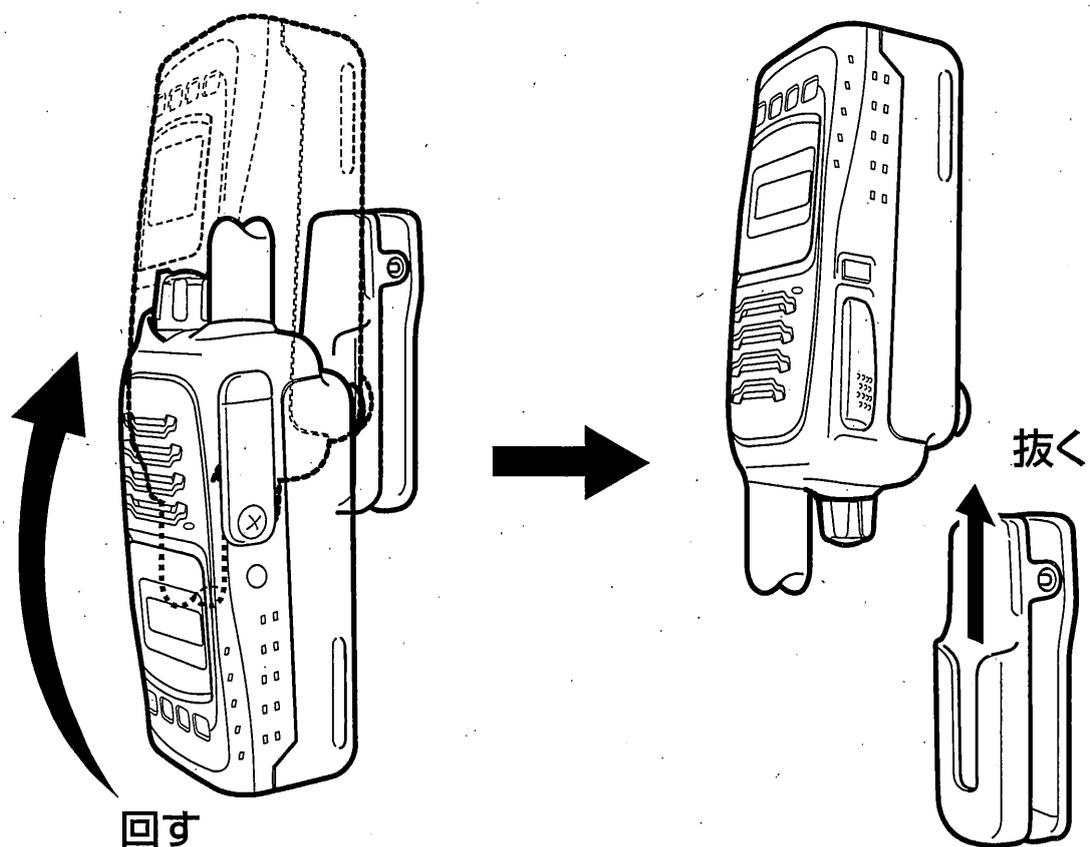
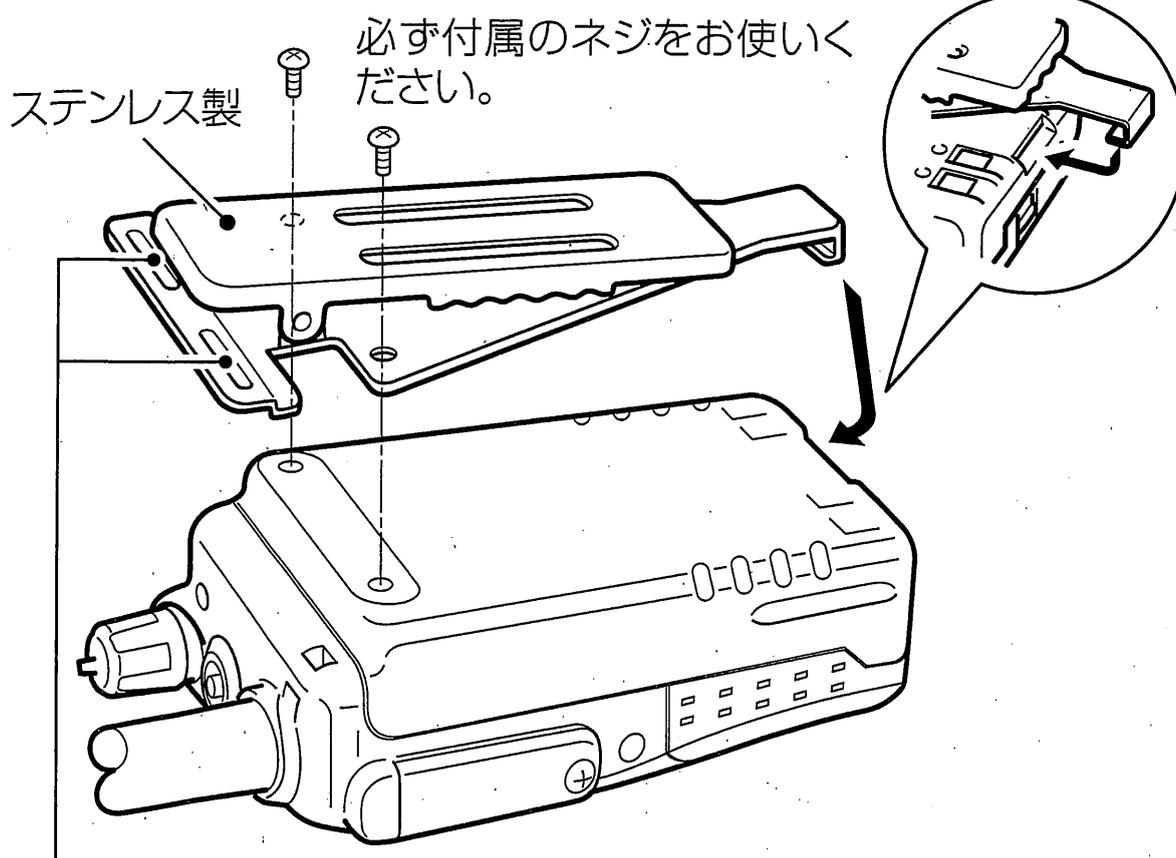
充電ランプ
※各スロットに装備

OPC-656(別売品)

→ 直流(DC)電源へ
(12V〜16V:12V時7A以上必要)

■ MB-86(回転式ベルトクリップ)

〈組み立てかた〉

〈無線機の取り付けかた〉

〈無線機のはずしかた〉
ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転させてから引き抜きます。

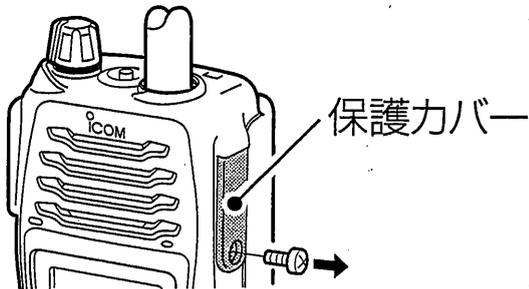
⚠ 注意

ストッパーの破損にご注意ください。
落としたり、強い衝撃が加わってストッパー部分が破損したりすると、ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。

■ MB-97(ベルトクリップ)

MB-57L(ショルダーストラップ)やMB-80のストラップ部を取り付けできます。

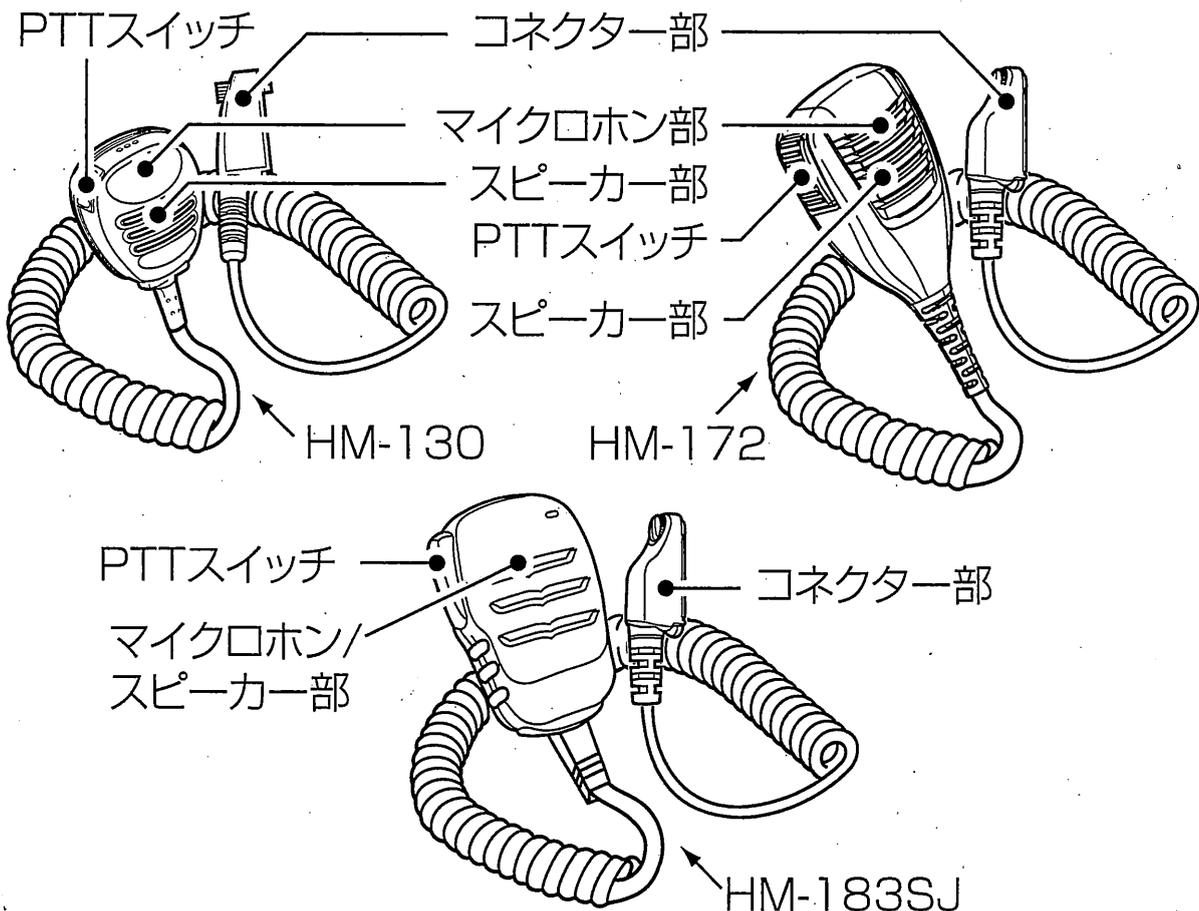
⚠ 注意

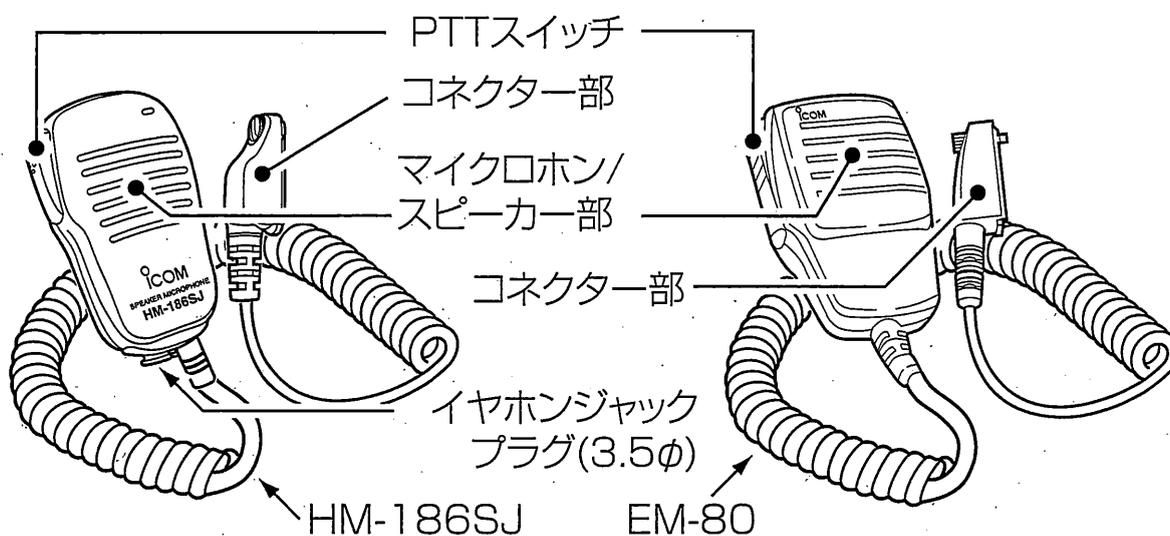
腰などに固定するときに、指を挟まないようご注意ください。

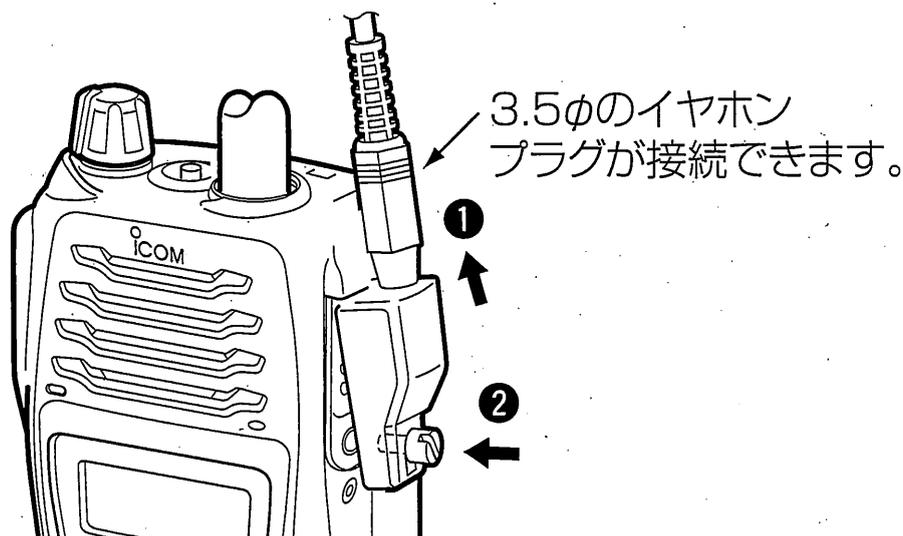
■ 別売品を接続するには

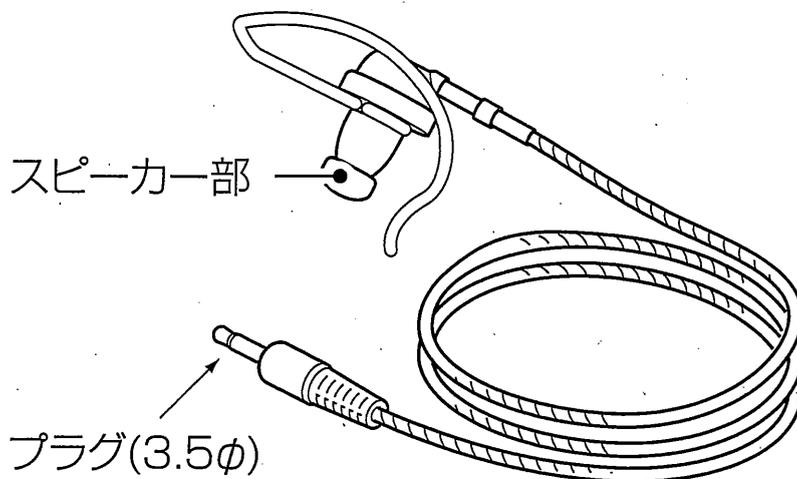
端子保護のため、別売品を接続しないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。

①市販のドライバーを用意します。
②無線機の側面側にある保護カバー固定用のネジ(1本)をはずします。
③保護カバーをはずします。

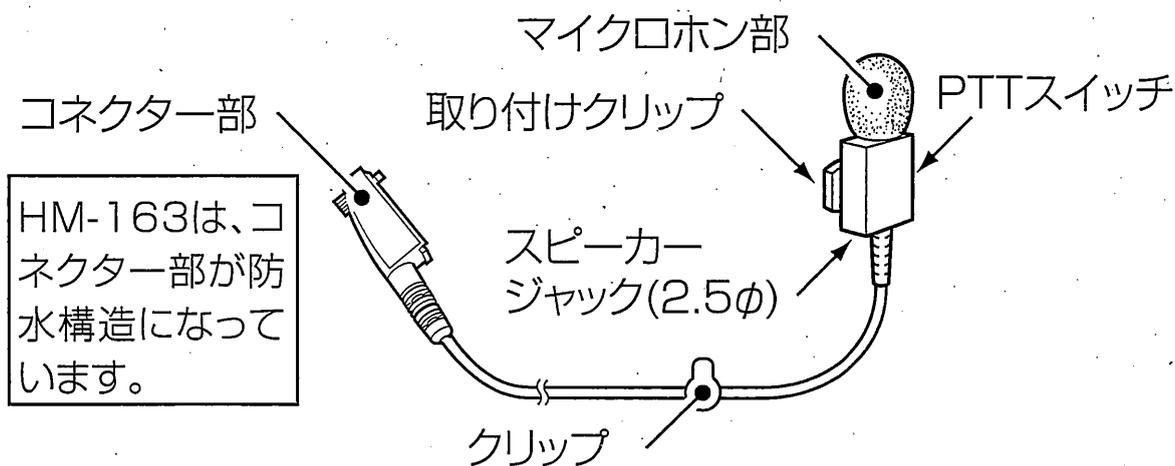
■ HM-130/HM-172★/HM-183SJ (防水形スピーカーマイク)

JIS保護等級7(防浸形)保証の防水性能があります。
★HM-172をご使用いただくには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

■ EM-80(スピーカーマイク)/ HM-186SJ(小型スピーカーマイク)

※HM-186SJのケーブルは、無線機を肩に固定して、マイクを胸ポケットに入れてご使用いただける長さです。

■ AD-52(イヤホンジャックアダプター)

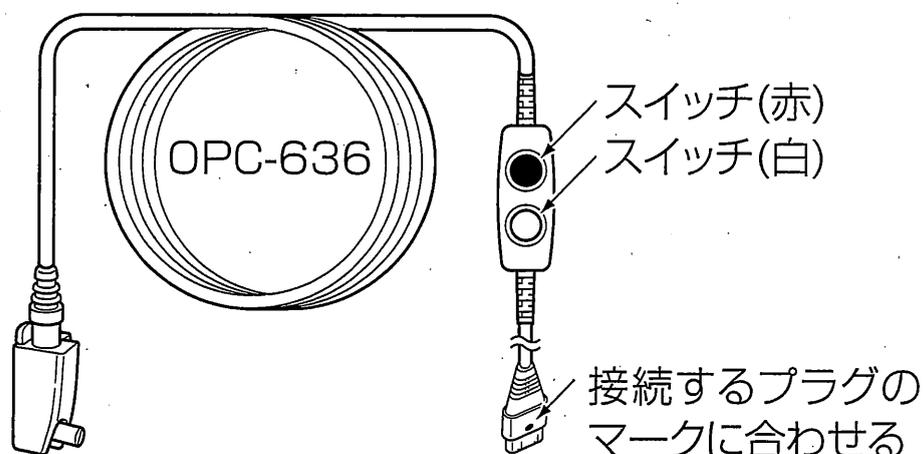
別売品のSP-16と組み合わせてご使用になれます。
また、市販品のイヤホン(プラグ:3.5φ)と組み合わせてもご使用になれます。
※装着しても、イヤホンプラグが接続されるまでは、無線機内蔵のスピーカーが機能します。

■ SP-16(耳掛け型イヤホン)

別売品のAD-52と組み合わせてご使用になれます。
どちらの耳にも使用できます。

■ HM-109/HM-163 (接話タイピン型マイクロホン)

別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。

■ FA-S04U(防水形短縮アンテナ)

◎外形寸法　：φ12.5×50[mm]
◎使用周波数：351MHz帯

■ OPC-636/OPC-637 (マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)

別売品のHS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aを接続してご使用になれます。

〈OPC-636の場合〉

赤色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。

※白色のスイッチが出ている(出)とき使用できます。

- ▁▁:押しているあいだだけ送話する
- ⊓:はなすと送話を中断する

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。

※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれていると無効です。

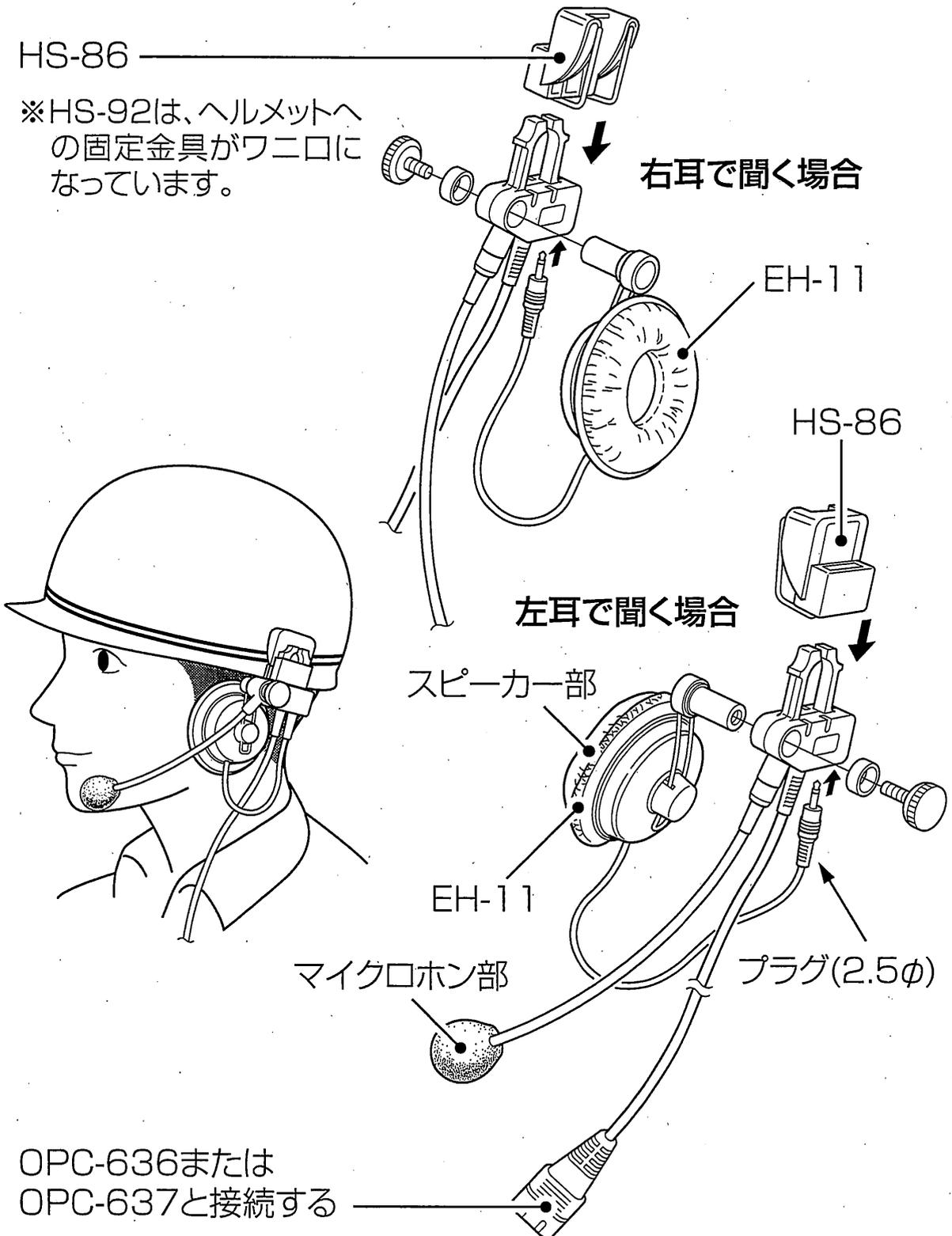
- ▁▁:押し込む(入)と送話する
- ⊓:出ている(出)と送話を中断する

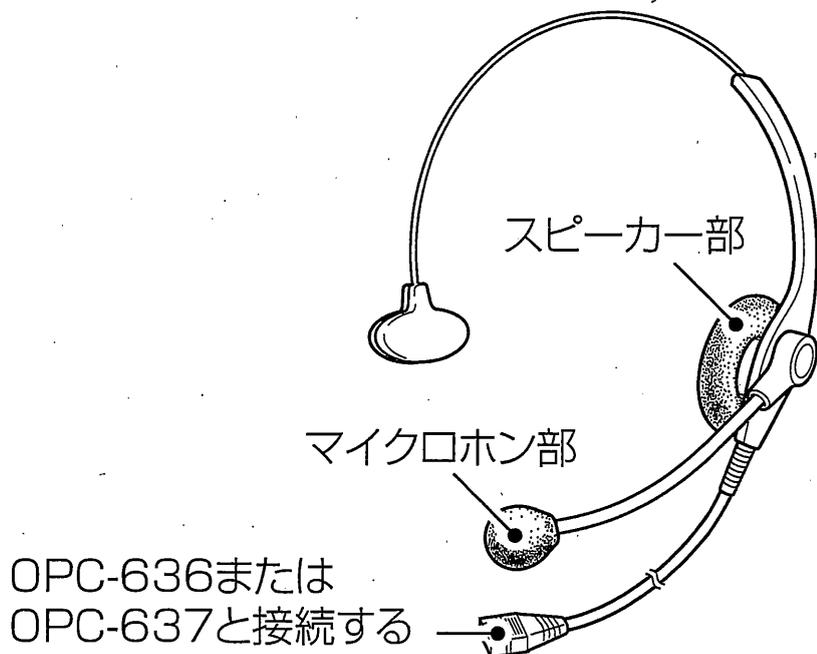
〈OPC-637の場合〉

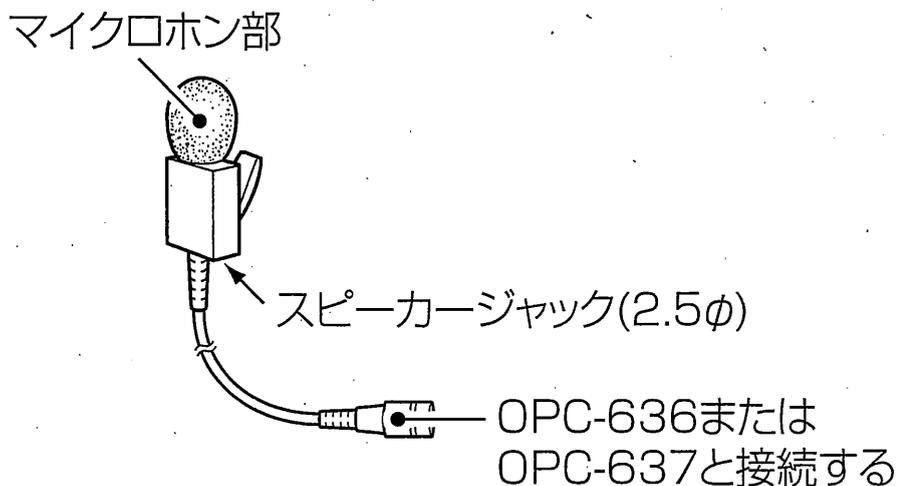
黒色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。

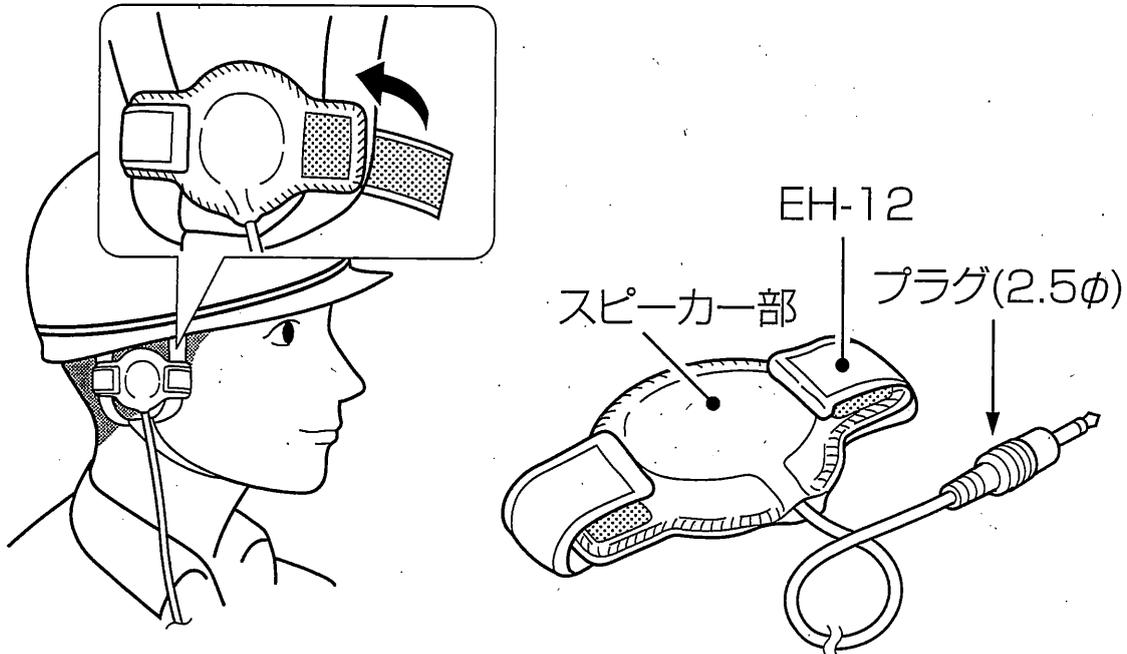
- ▁▁:押しているあいだだけ送話する
- ⊓:はなすと送話を中断する

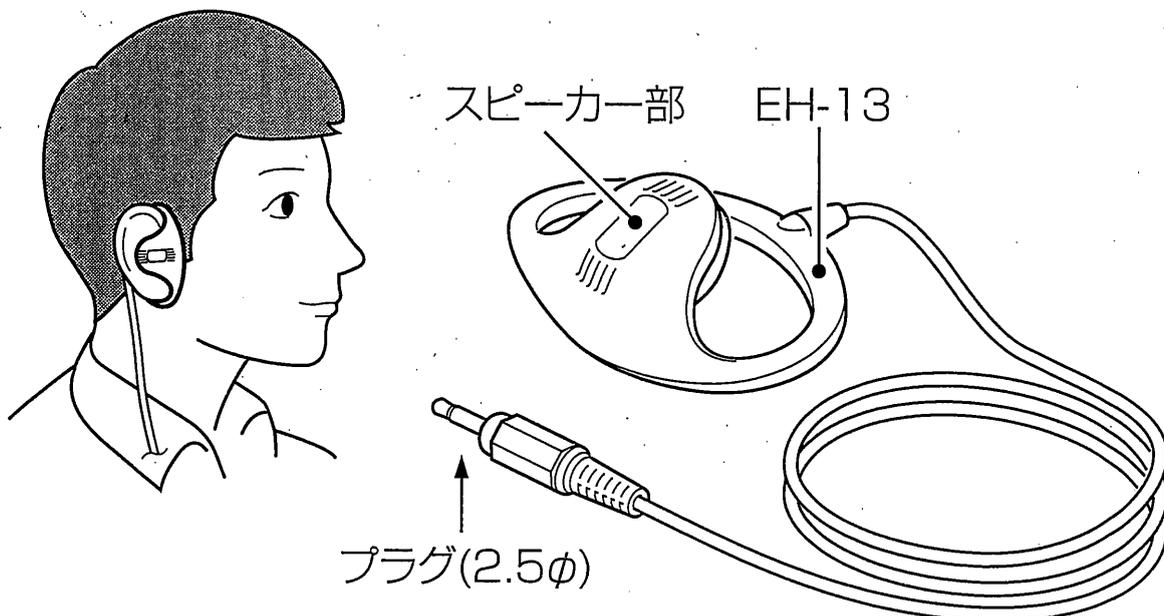
■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)とEH-11(イヤーパット型スピーカー)の組み立て

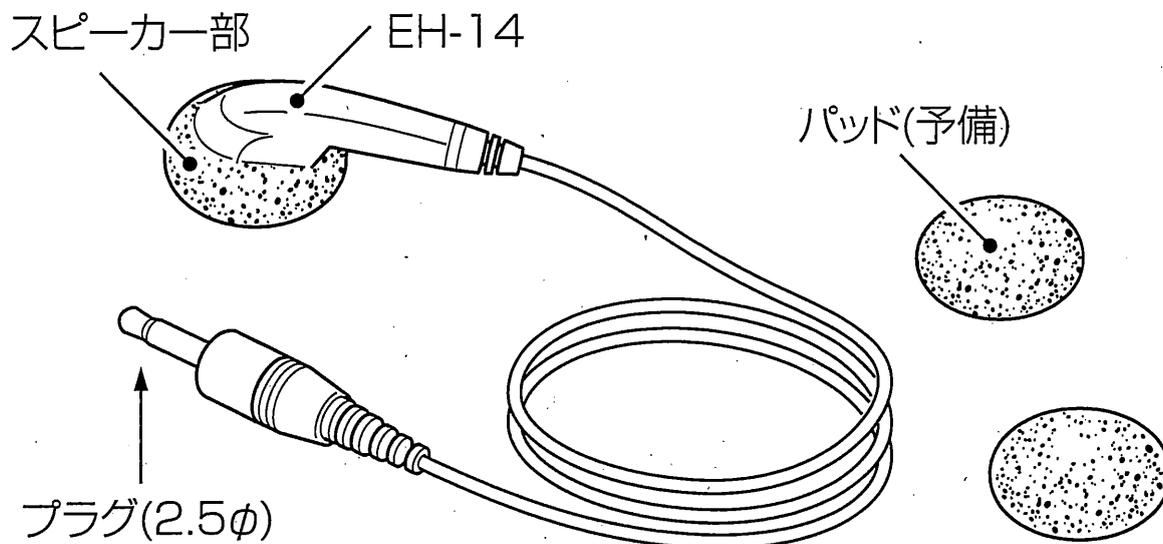
別売品のOPC-636、OPC-637および、EH-11、EH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。

■ HS-88(ヘッドセット)

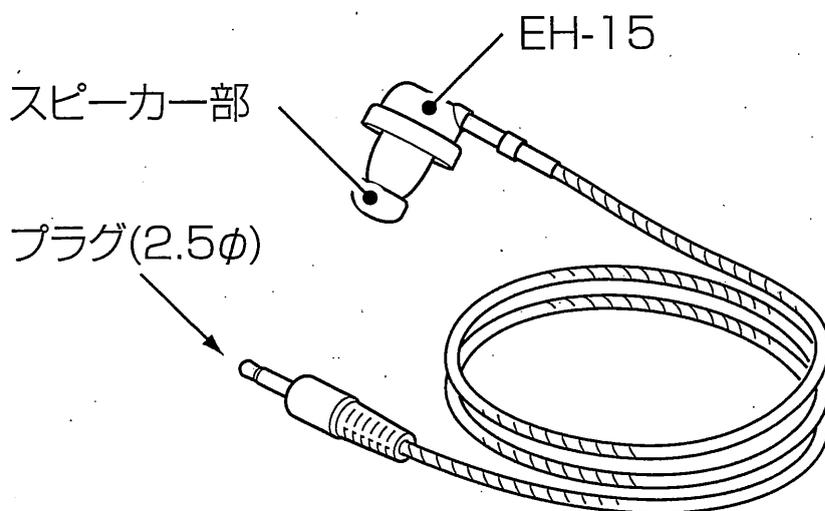
別売品のOPC-636、OPC-637に接続してご使用になれます。

■ HM-104/HM-104A(単一指向性/無指向性タイピン型マイクロホン)

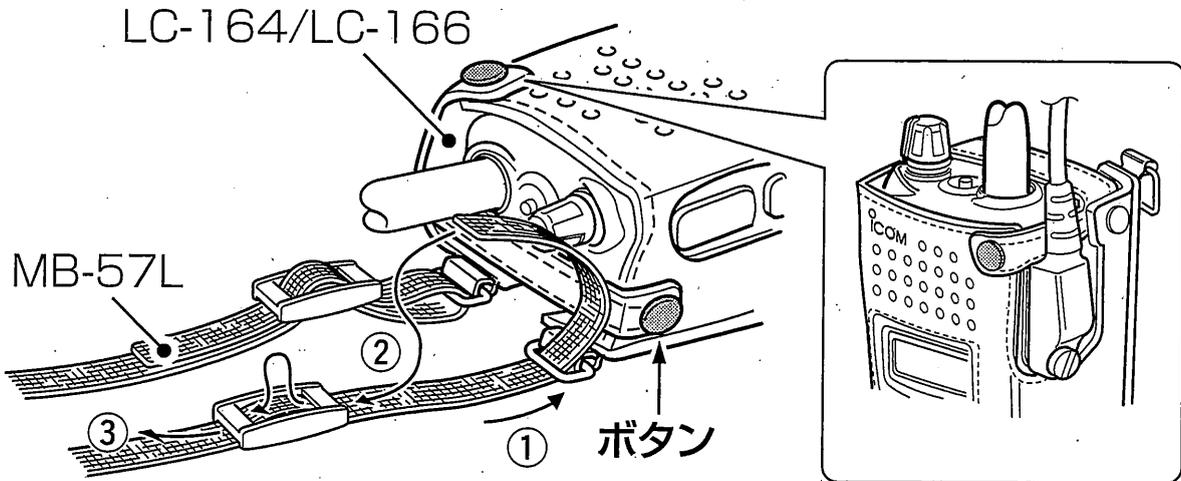
別売品のOPC-636、OPC-637に接続してご使用になれます。
スピーカージャックには、別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15が必要です。

■ EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)

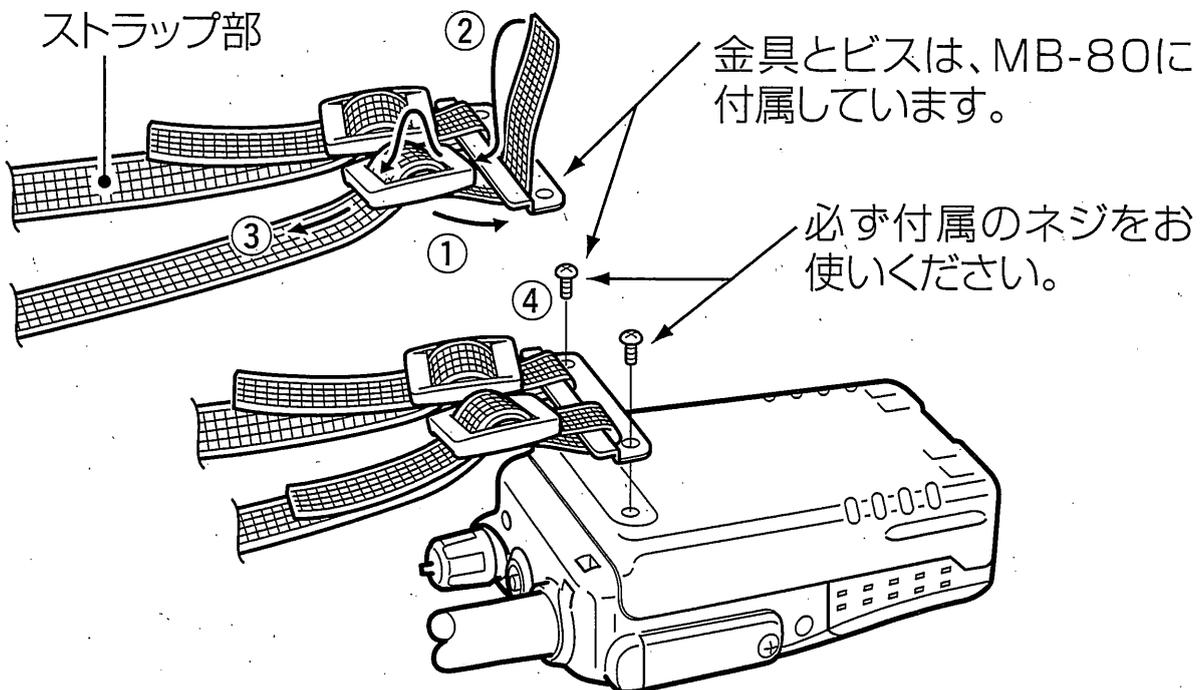
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

■ EH-13(耳掛け型イヤホン)

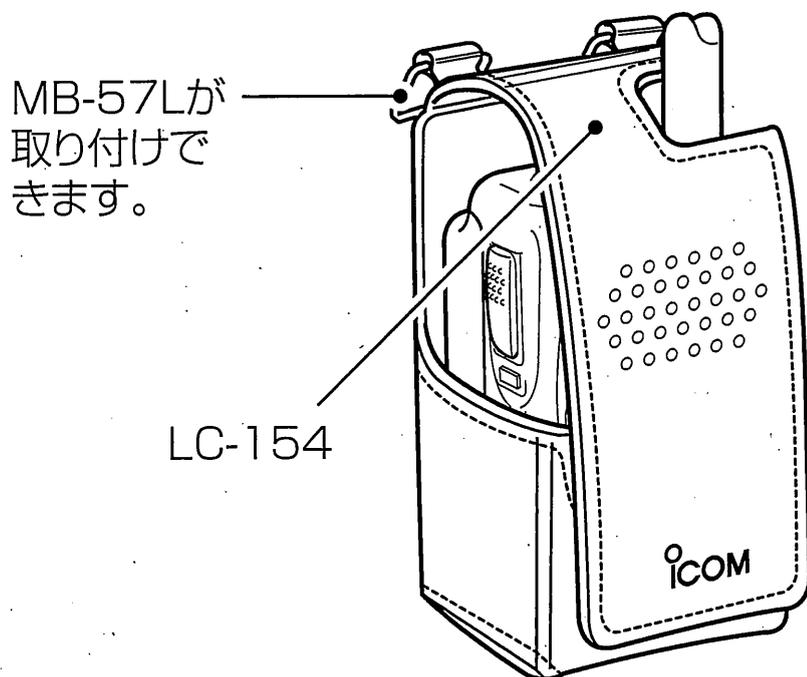
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。
※どちらの耳にも使用できます。

■ EH-14(オープンエアー型イヤホン)

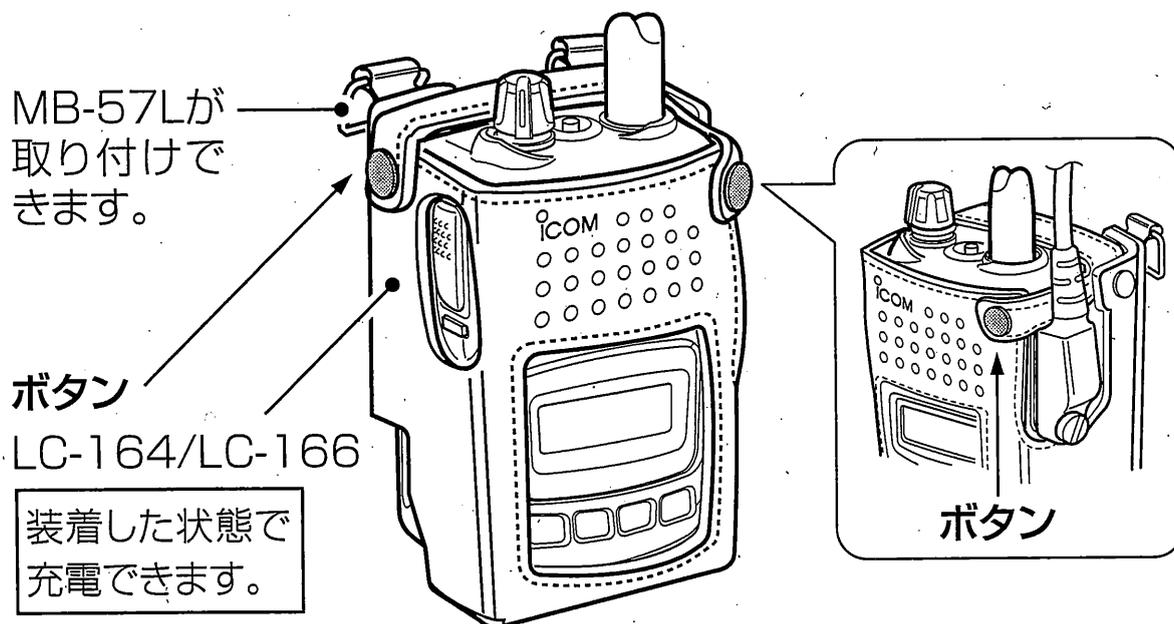
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

■ EH-15(イヤホン)

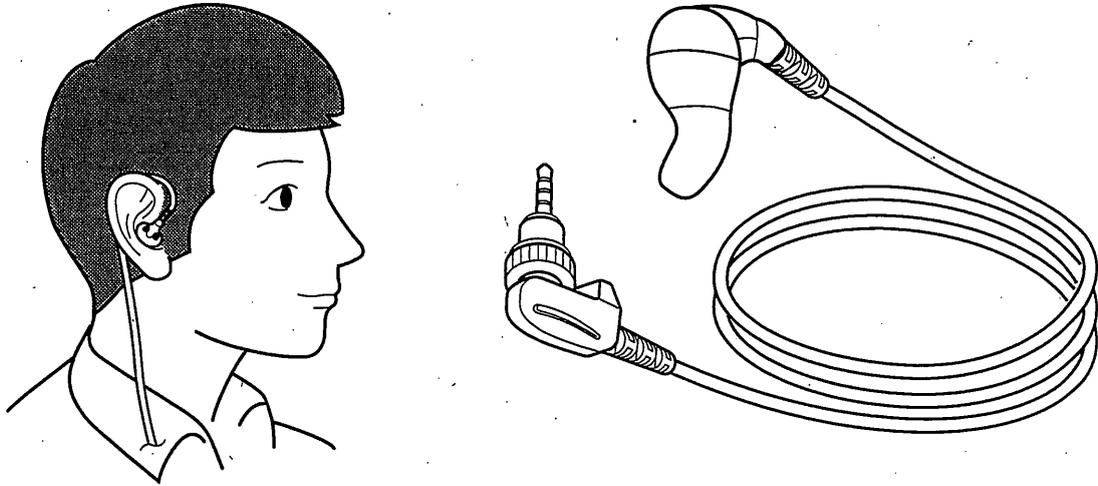
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

■ MB-57L(ショルダーストラップ)の取り付け

図(①～③)の順に取り付けます。
別売品のLC-154、LC-164、LC-166と組み合わせてご使用になれます。

■ MB-80(ショルダーストラップ)の取り付け

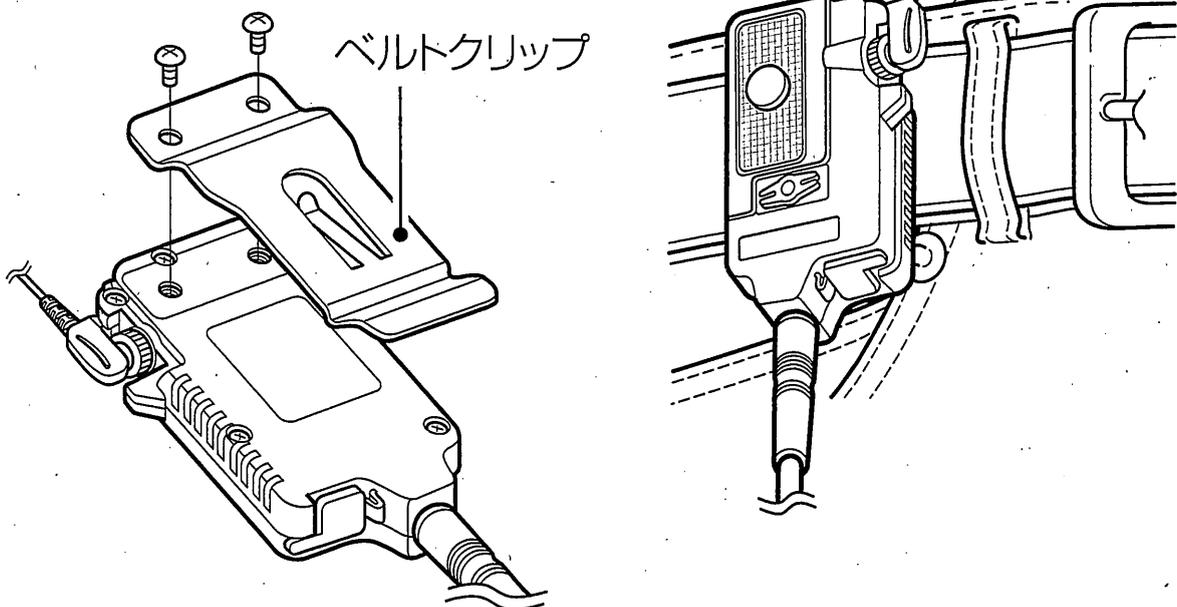
図(①～④)の順に取り付けます。
ストラップ部(MB-57L)は、別売品のLC-154、LC-164、LC-166と組み合わせてご使用になれます。

■ LC-154(ハードケースL)

別売品のBP-220N/221にはLC-154と組み合わせてご使用になれます。

■ LC-164/LC-166 (ハードケースS/ハードケースL)

別売品のBP-246にはLC-164、別売品のBP-220N/221にはLC-166と組み合わせてご使用になれます。

■ HM-147(骨伝導マイク)

ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。
使いかたは、HM-147に付属の取扱説明書をご覧ください。

[ボイスデューサー　イヤーマイクレシーバー]

〈ベルトクリップの取り付け〉

必ず付属のネジをお使いください。

[ボイスデューサー　インターフェイス]

7 保守について

■ 日常の保守と点検について

●ふだんのお手入れは、乾いたやわらかい布をご使用ください。
汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
また、バッテリーパック(BP-220N/BP-246)やアルカリ電池ケース(BP-221)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。
シンナーやベンジンなどは、絶対に使用しないでください。

●無線機本体、バッテリーパック、充電器(BC-161、BC-121NA)、アルカリ電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
各端子は、乾いた布などで定期的にお手入れしてください。

●使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。
また、アルカリ電池ケース、またはバッテリーパック等がしっかりと装着されているか点検してください。

●定期的に決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを調べてください。

●音量が最小に調整されていないか、表示部の音量表示を確認してください。

■ 故障かな？と思ったら

下記のような現象は、故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈現　象〉[電源/音量]ツマミを回しても電源が入らない

〈原因1〉電池をアルカリ電池ケース(BP-221)に入れるとき、極性を間違えている

処置：極性を確認して、アルカリ電池を入れなおす

〈原因2〉バッテリーパック(BP-220N/BP-246)、またはアルカリ電池ケースの接触不良

処置：アルカリ電池ケースの電池端子またはバッテリーパックの充電端子を清掃する

〈原因3〉バッテリーパック、またはアルカリ電池の消耗

処置：バッテリーパックの場合は充電し、電池の場合は新しいアルカリ電池と交換する

〈原因4〉バッテリーパックの場合、過放電保護回路が動作している

処置：無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる

〈現　象〉スピーカーやイヤホンから音が聞こえない

〈原　因〉音量が最小に調整されている

処置：無線機本体の「音量」を確認する(☞P7)

〈現　象〉充電中に充電器のランプが赤色点滅になる

〈原　因〉無線機の電源を入れた状態で充電している

処置：無線機の電源を切った状態で充電する

※現象が変わらない場合は、バッテリーパックの故障または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

(☞次のページにつづく)

■ 故障かな？と思ったら(つづき)

〈現　象〉スイッチを押すと“キーロック”が表示され、キーが動作しない

〈原　因〉ロック機能が動作している

処置：ロック機能を解除する(☞P16)

〈現　象〉充電が完了(充電器のランプが緑色に点灯)しない

〈原　因〉無線機の電源を入れた状態で充電している

処置：無線機の電源を切った状態で充電する

〈現　象〉交信できない(応答がない)

〈原因1〉相手局と距離がはなれすぎている

処置：場所を移動してから交信してみる

〈原因2〉相手局が不在、または電源を切っている

処置：相手局の状態を確認する

〈原因3〉相手局と「通話チャンネル」が合っていない

処置：相手局と同じにする、さらに個別呼び出し機能で使用の場合は、相手局の個別番号を選択する(☞P8、P11)

〈原因4〉相手局と「ユーザーコード」が合っていない

処置：相手局とユーザーコードを一致させる(☞P18)

〈原因5〉相手局と「秘話キー」が合っていない

処置：相手局と秘話キーを一致させる(☞P25、P26)

■ 故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

「■ 故障かな？と思ったら」(☞P58、P59)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

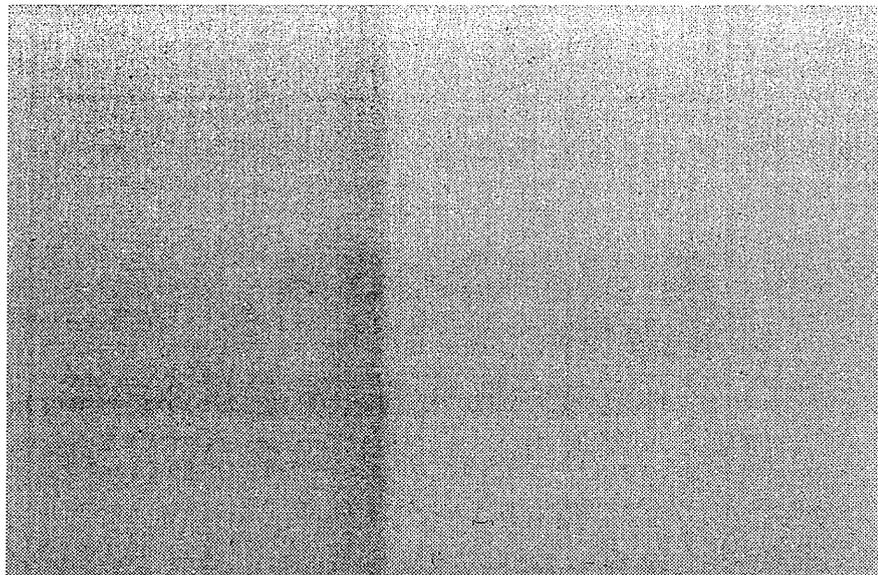
●弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、お買い上げいただきました販売店、または下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:アイコム株式会社　サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)
◆ **携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、**
06-6792-4949(通話料がかかります)
受付(平日 9:00〜17:00)
電子メール:support_center@icom.co.jp
アイコムホームページ:http://www.icom.co.jp/

●弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ(http://www.icom.co.jp/)をご覧ください。

7

高品質がテーマです。

A-6705H-1J
Printed in Japan

この印刷物は環境にやさしい再生紙と
植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32